

2007年3月期決算説明会
参考データ集

国際石油開発帝石HD 売上高

原油

	07年3月期
原油売上高*(億円)	6,074

海外原油販売量(千bbl)	83,105
平均単価(\$/bbl)	62.16
平均為替(¥/\$)	116.90

国内原油販売量(千kl)	27
平均単価(¥/kl)	45,694

*インドネシア国内供給義務を含む。

天然ガス

	07年3月期
天然ガス売上高(億円)	3,329

海外ガス販売量(百万cf)	318,585
平均単価(\$/千cf)	7.51
平均為替(¥/\$)	116.91

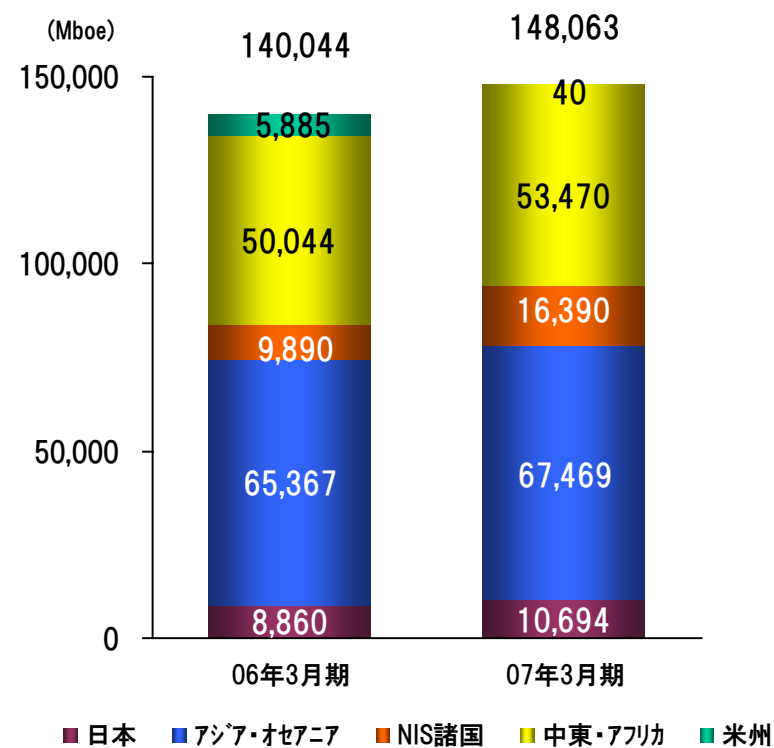
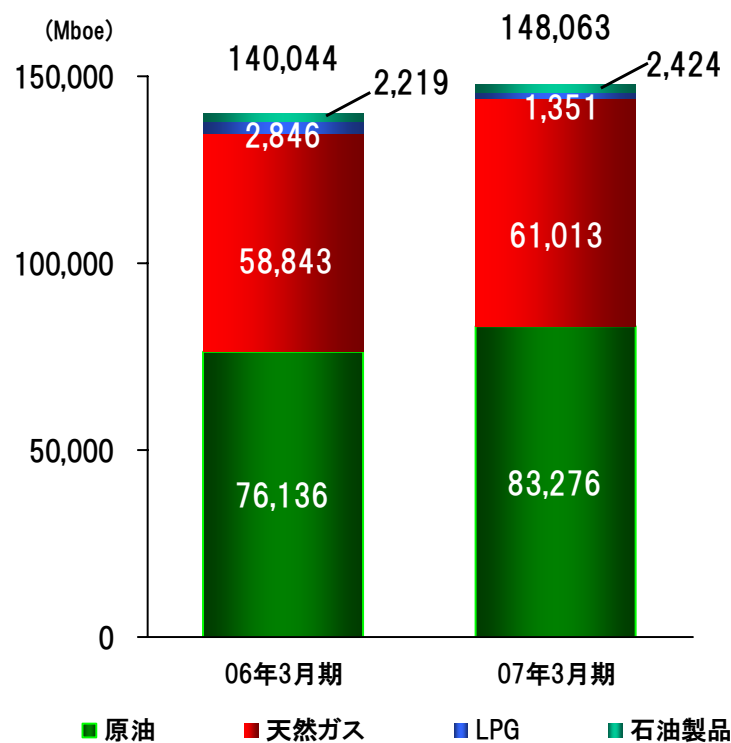
国内ガス販売量(百万m ³)	1,272
平均単価(¥/m ³)	34.96

海外LPG販売量(千bbl)	1,166
平均単価(\$/bbl)	48.76
平均為替(¥/\$)	116.30

国内LPG販売量(ton)	17,540
平均単価(¥/kg)	126.65

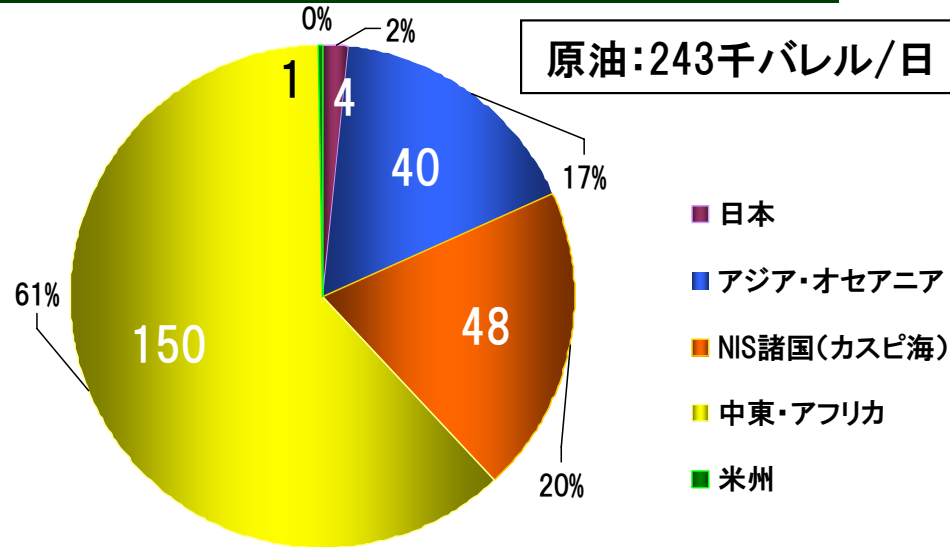
国際石油開発帝石HD 販売量

	2006年3月期					2007年3月期					増減				
	原油 (Mbbbl)	天然ガス (MMcf)	LPG (Mbbbl)	石油製品 (Mbbbl)	合計 (Mboe)	原油 (Mbbbl)	天然ガス (MMcf)	LPG (Mbbbl)	石油製品 (Mbbbl)	合計 (Mboe)	原油 (Mbbbl)	天然ガス (MMcf)	LPG (Mbbbl)	石油製品 (Mbbbl)	合計 (Mboe)
日本	54	38,547	162	2,219	8,860	170	47,495	184	2,424	10,694	117	8,948	22	205	1,835
アジア・オセアニア	14,890	286,755	2,684	-	65,367	13,234	318,413	1,166	-	67,469	△1,656	31,659	△1,518	-	2,103
NIS諸国	9,890	-	-	-	9,890	16,390	-	-	-	16,390	6,501	-	-	-	6,501
中東・アフリカ	50,044	-	-	-	50,044	53,470	-	-	-	53,470	3,426	-	-	-	3,426
米州	1,259	27,757	-	-	5,885	11	172	-	-	40	△1,248	△27,585	-	-	△5,846
合計	76,136	353,059	2,846	2,219	140,044	83,276	366,080	1,351	2,424	148,063	7,139	13,021	△1,496	205	8,019

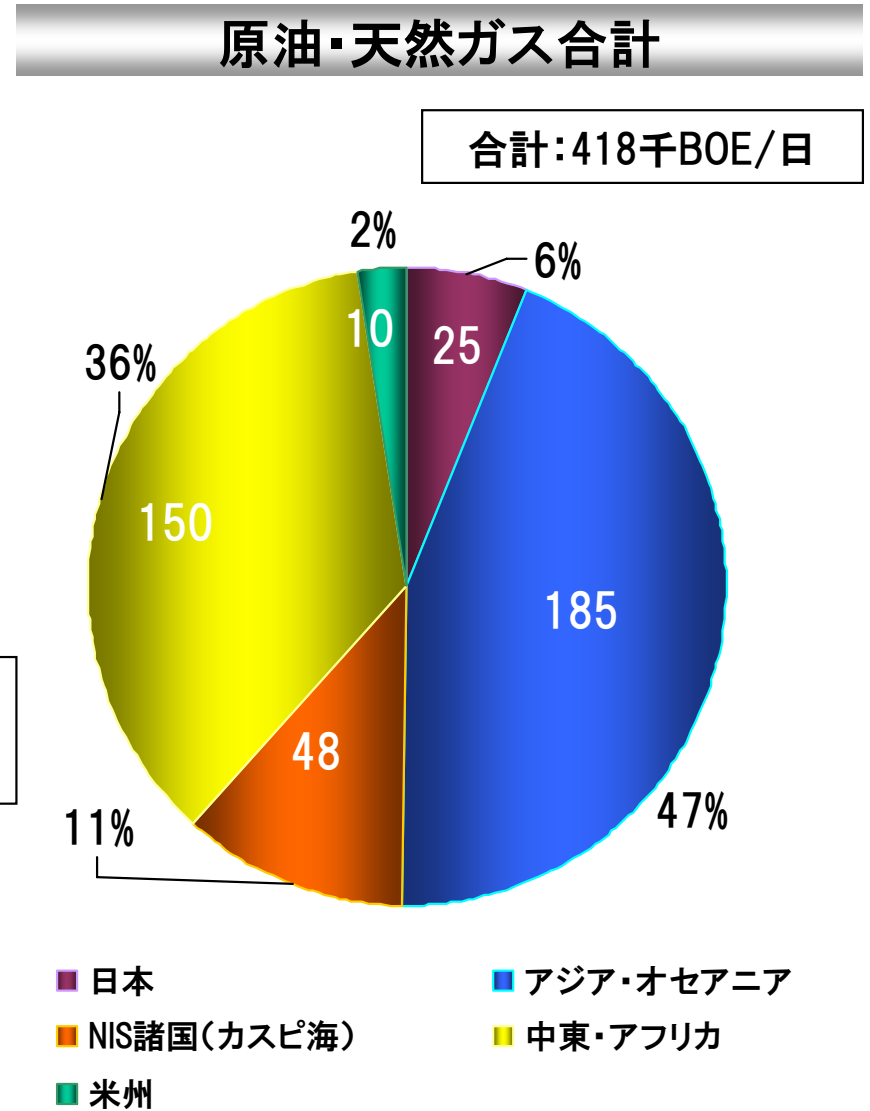


国際石油開発帝石HD 生産量

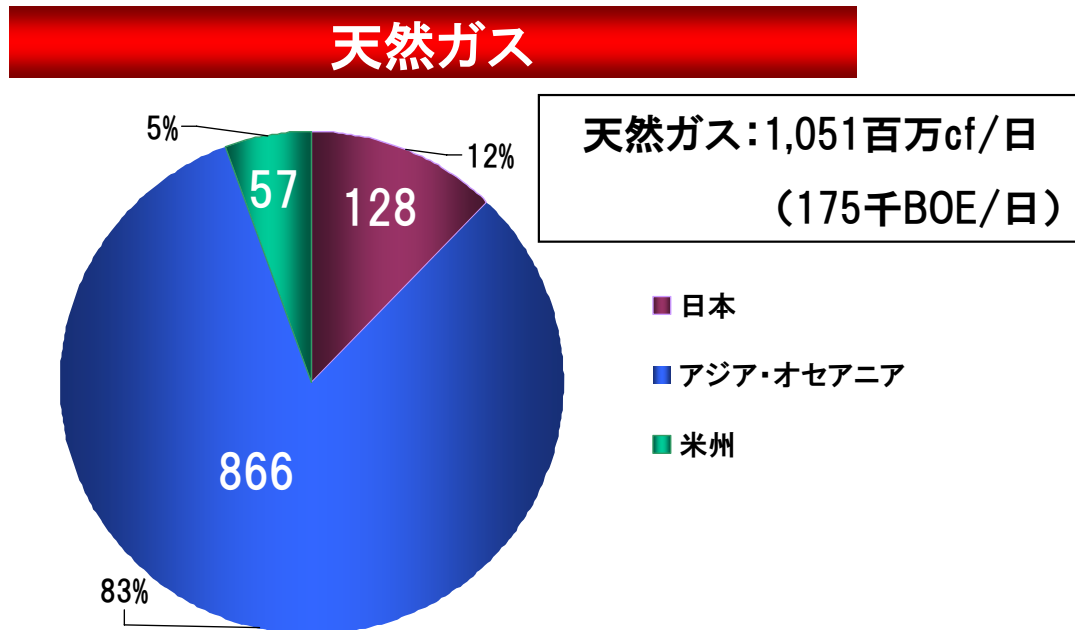
原油



原油・天然ガス合計



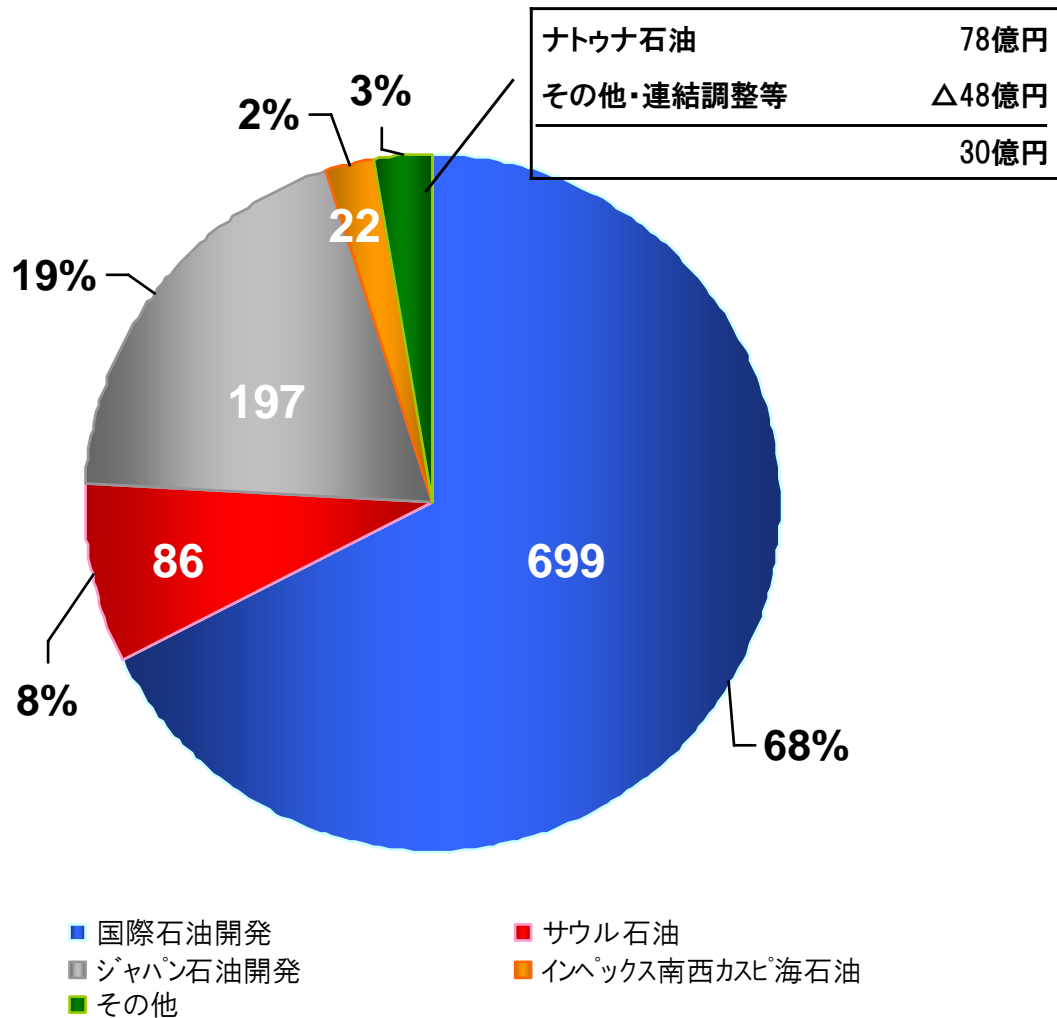
天然ガス



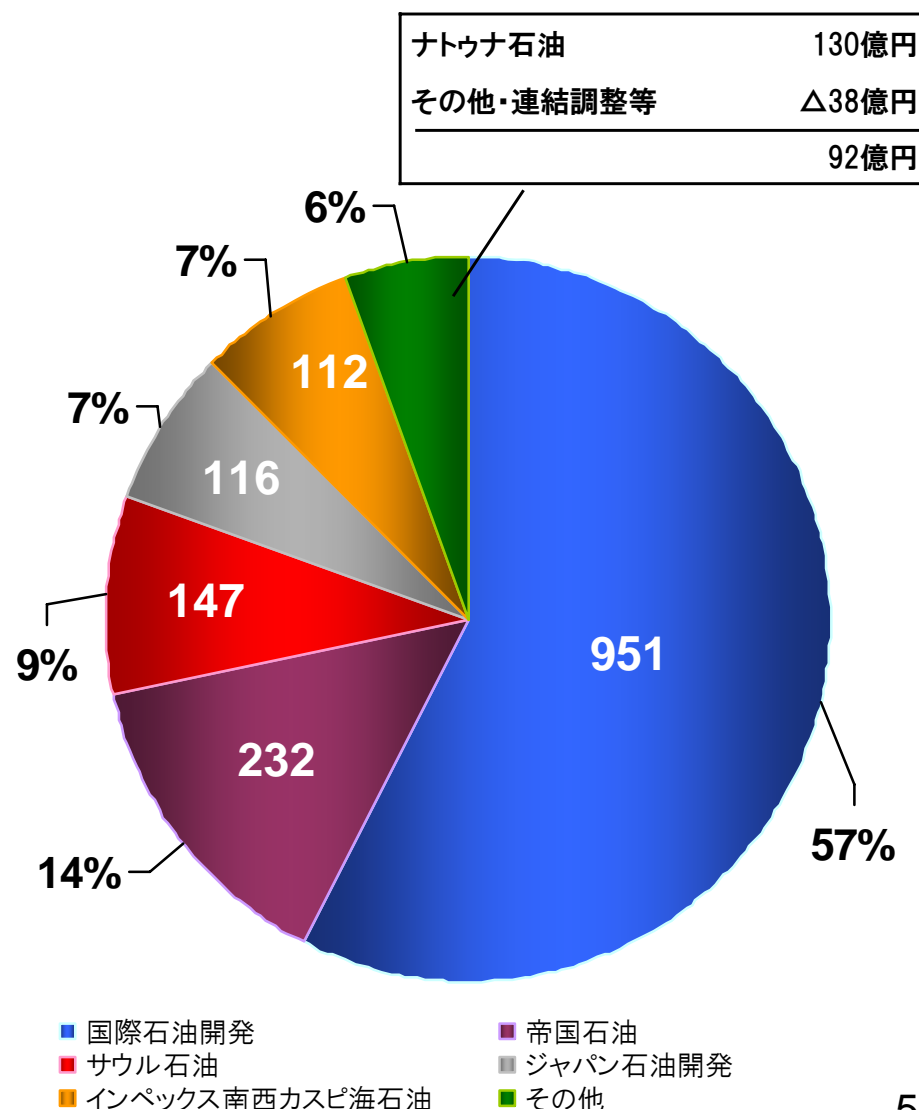
主要会社貢献度

(注) 各社の金額は、連結上必要な調整（少数株主損益の控除等）後のものです。

国際石油開発(連) 06/3期 純利益1,034億円



HD 07/3期 純利益1,650億円



* 帝国石油の06/3期は参考数値のため省略

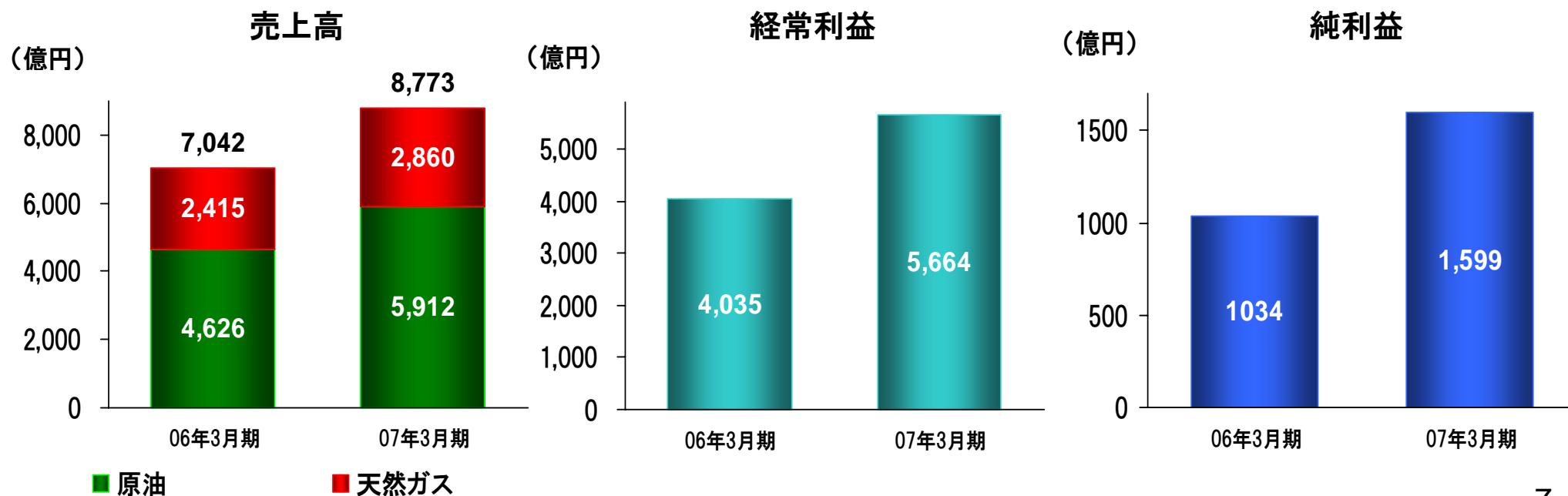
国際石油開発帝石HD

2007年3月期 EBIDAXの計算詳細

(百万円)		出所	備考
純利益	165,091	P/L	
少数株主損益	7,932	P/L	
減価償却相当額	143,525		
減価償却費	30,599	C/F	コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	6,977	C/F	
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	105,949	C/F	PS契約に係る減価償却費
探鉱費相当額	26,837		
探鉱費	17,688	P/L	コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金繰入額	6,176	P/L	PS契約に係る探鉱費
探鉱事業引当金繰入額	2,973	P/L	PS契約に係る探鉱費
重要な非現金項目	△21,307		
法人税等調整額	△19,655	P/L	
為替差損益	△1,652	C/F	
税引後ネット支払利息	△291	P/L	税引後の支払利息－受取利息
EBIDAX	321,787		

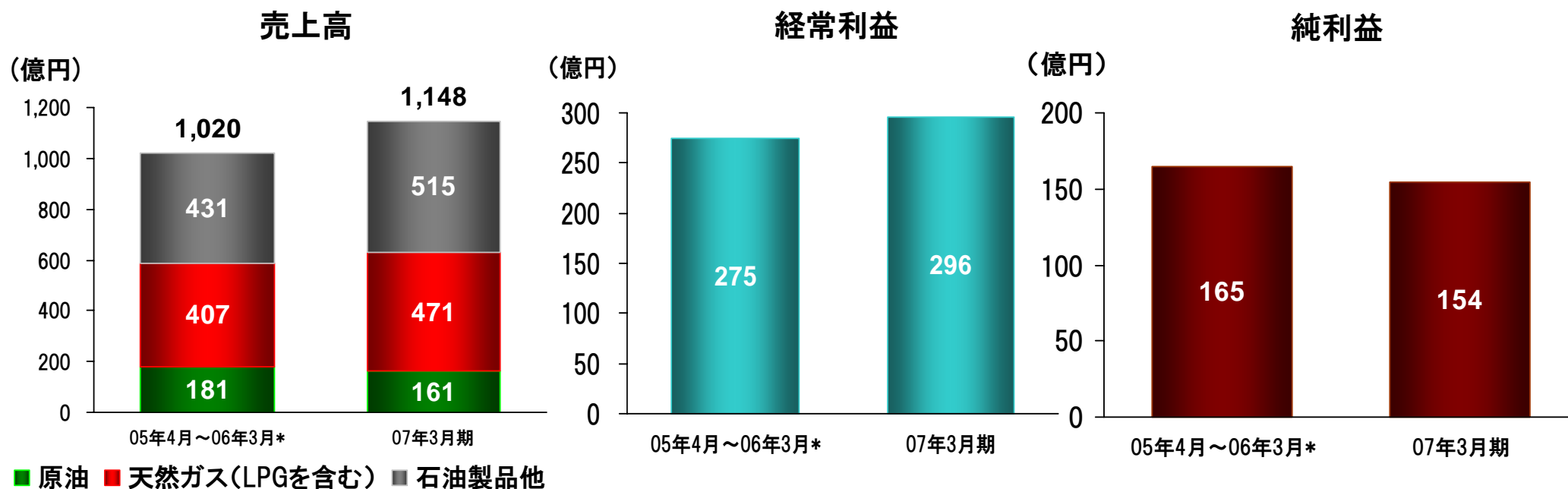
国際石油開発 2007年3月期決算ハイライト

	06年3月期	07年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	7,042	8,773	1,730	24.6%
営業利益(億円)	4,266	5,341	1,074	25.2%
経常利益(億円)	4,035	5,664	1,629	40.4%
純利益(億円)	1,034	1,599	564	54.6%



帝国石油 2007年3月期決算ハイライト

	05年4月～06年3月*	07年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	1,020	1,148	127	12.5%
営業利益(億円)	233	315	81	34.9%
経常利益(億円)	275	296	21	7.8%
純利益(億円)	165	154	△11	△6.8%



*当該金額は2005年決算(1～12月)から2005年第1四半期(1～3月)を差し引き、決算期変更に伴う2006年1～3月決算を加えた参考数値である。
*2006年1～3月決算は、決算期変更に伴う変則決算であり、決算期変更を行わなかった連結子会社の一部の決算を含まない。

所在地別セグメント情報

2006年4月1日～2007年3月31日

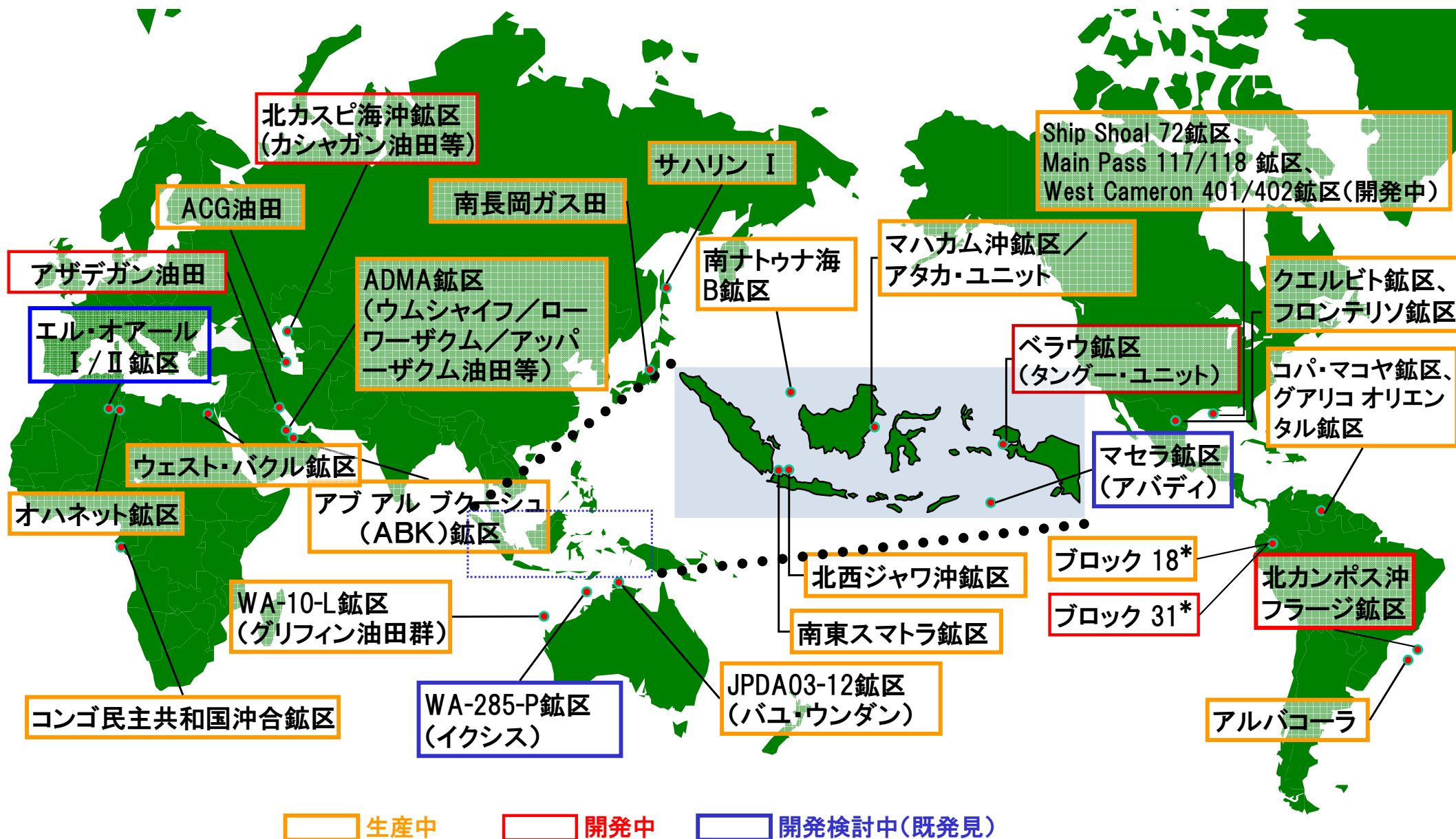
(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	NIS諸国	中東・アフリカ	米州	計	消去または 全社	連結
売上高	77,322	387,542	118,617	386,009	220	969,713	(0)	969,712
営業費用	54,306	145,637	82,995	119,282	1,659	403,882	6,753	410,635
営業利益	23,016	241,905	35,621	266,726	△1,438	565,831	(6,753)	559,077
資産	197,404	322,115	320,574	254,071	17,775	1,111,942	496,163	1,608,106

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度及び事業活動の相互関連性によっております。
- 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
- (1) アジア・オセアニア.....インドネシア、オーストラリア、東チモール、ベトナム
 - (2) NIS諸国アゼルバイジャン、カザフスタン
 - (3) 中東・アフリカ.....アラブ首長国連邦、コンゴ民主共和国、イラン、リビア、エジプト、アルジェリア
 - (4) 米州.....ベネズエラ、エクアドル、アメリカ合衆国
- 3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用(9,793百万円)の主なものは、のれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。
- 4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産(496,371百万円)の主なものは、のれん、現金預金、有価証券、投資有価証券及び管理部門に係る資産であります。

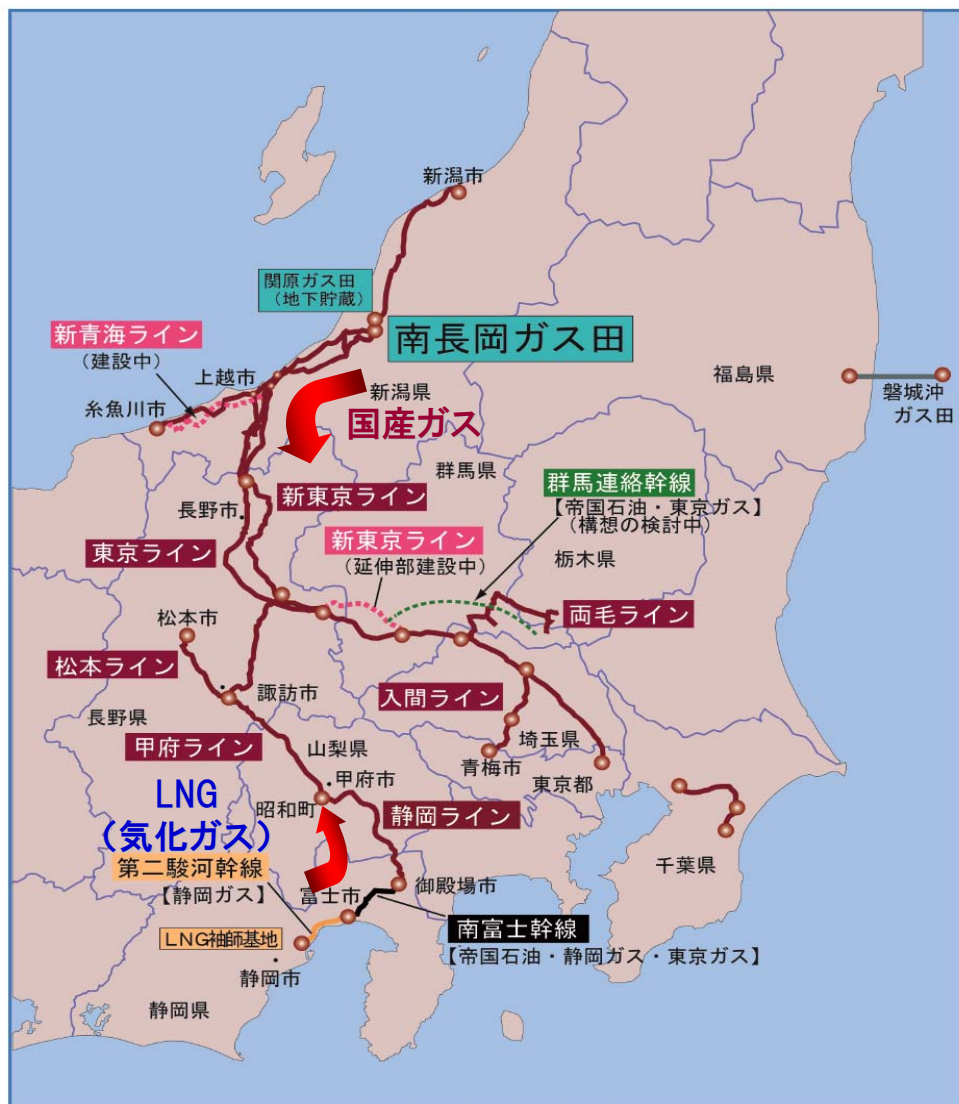
国際石油開発帝石ホールディングス プロジェクト参考データ

主なプロジェクトの地理的位置



* 権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

国内天然ガス事業 帝国石油



国内パイプラインネットワーク

■ 生産量*

- 天然ガス: 約3.6百万m³/日
- 原油: 約3,900バレル/日

■ 天然ガス販売量: 年間12億m³への前倒し達成 (2006年度)、さらなる拡販へ

■ 南長岡ガス田(1984年生産開始)

- MHF技術により北部開発を促進
- 2006年末プラント処理能力増強 (ガス田全体の処理能力: 約500万m³)

■ 関東甲信越地域へのガス拡販を目的としたパイプラインネットワーク(総延長約1,400km)の完成へ

- 静岡ライン(約80km: 220億円: 2006年完成)
- 南富士幹線(約30km: 27億円: 2006年完成)
- 新東京ライン延伸(約50km: 約110億円: 2007年完成予定)
- 新青海ライン(約49km: 約95億円: 2009年完成予定)

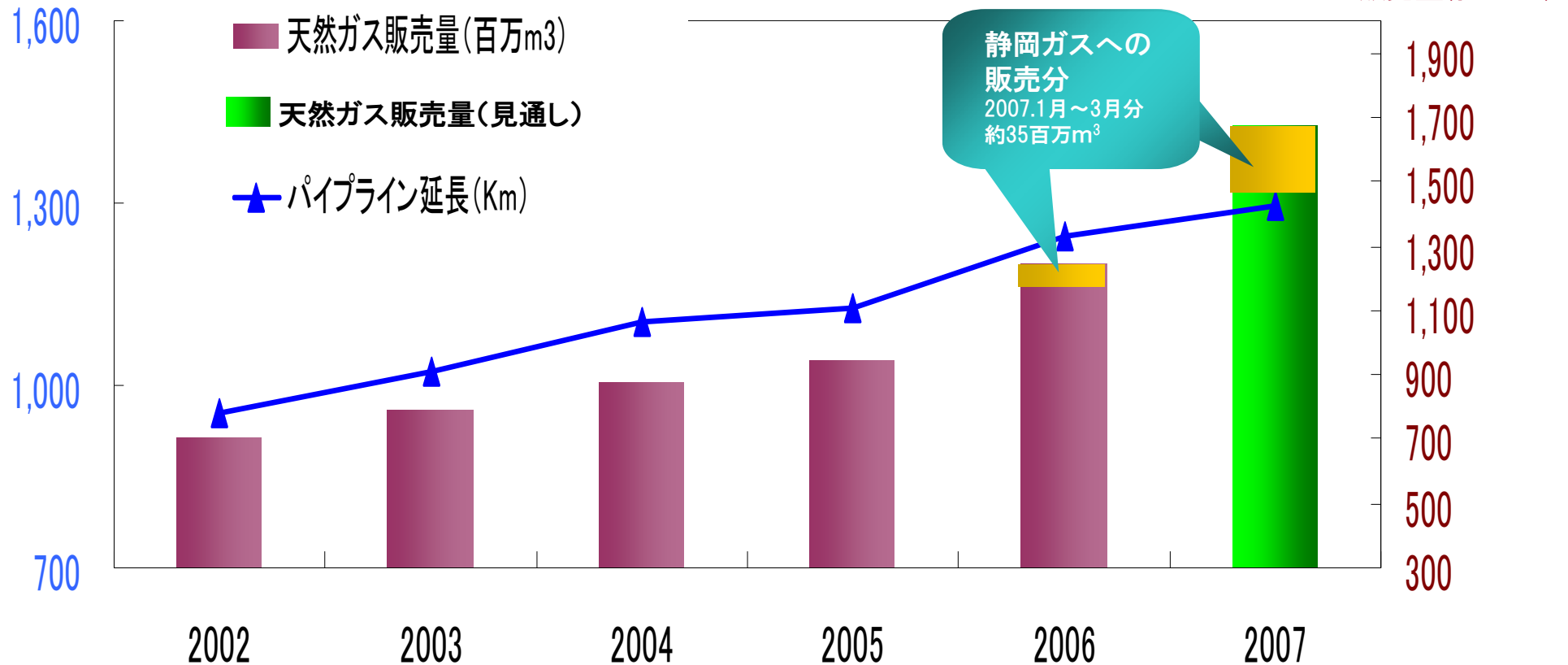
■ 発電事業: 約50,000kw

* 国内油田・ガス田の合計(2006年度)平均日産量

国内天然ガス事業

拡販の進捗状況

パイプライン延長 (km)



注: * 2005年までは12月期、2006年以降は翌年3月期の4月～3月ベース、2007年は見通し
 ** 帝石単体

■ 年間12億m³の拡販目標4年前倒し達成

- 工業用需要家を中心に天然ガスへの燃料転換が急速に進展中
- 静岡ガスへの供給を開始 ⇒ 2007年度は17億m³(約40%)の大幅増加見通し

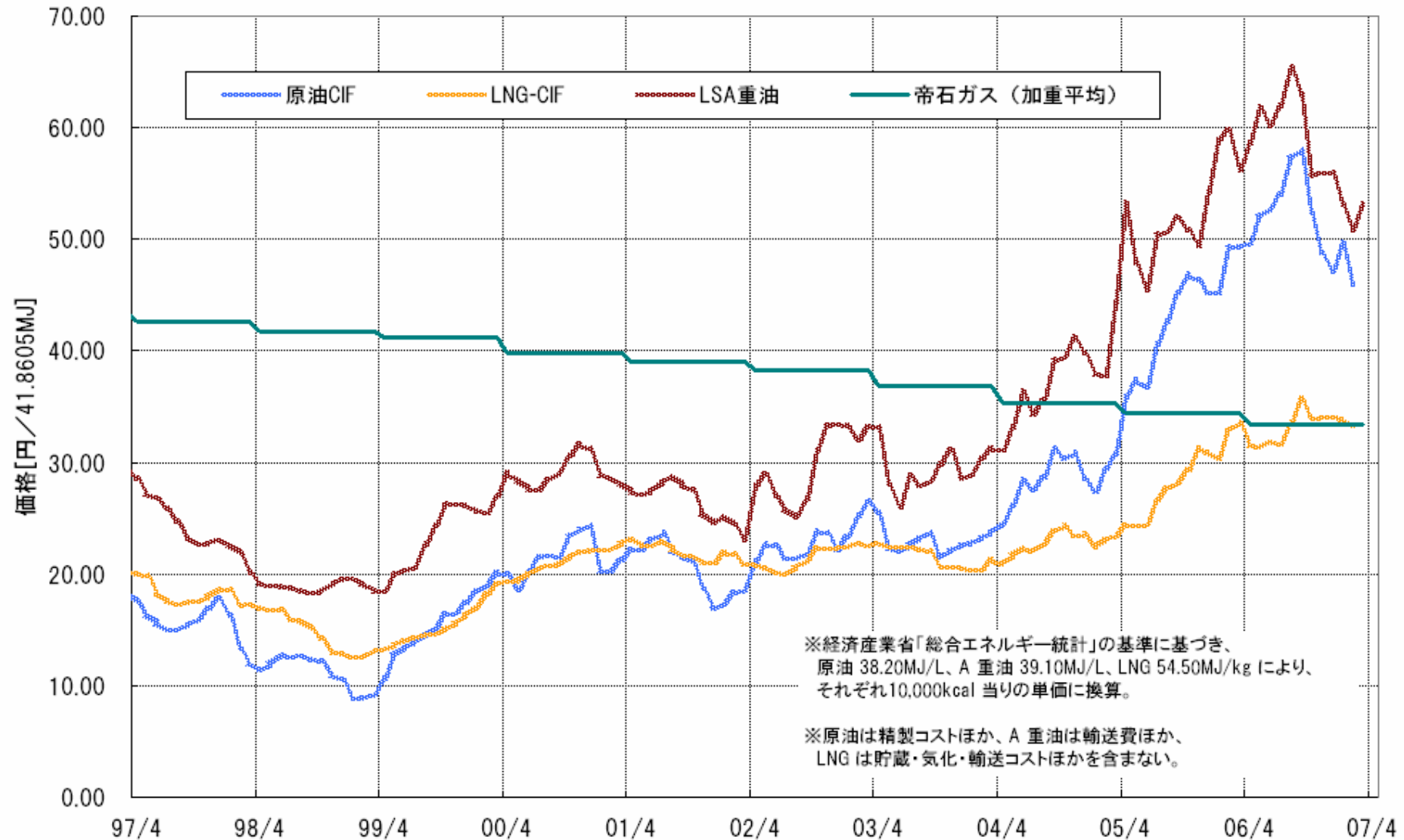
■ LNG導入に向けて(2010年～)

- 拡販ペースに応じた導入
- 価格体系の緩やかな改定

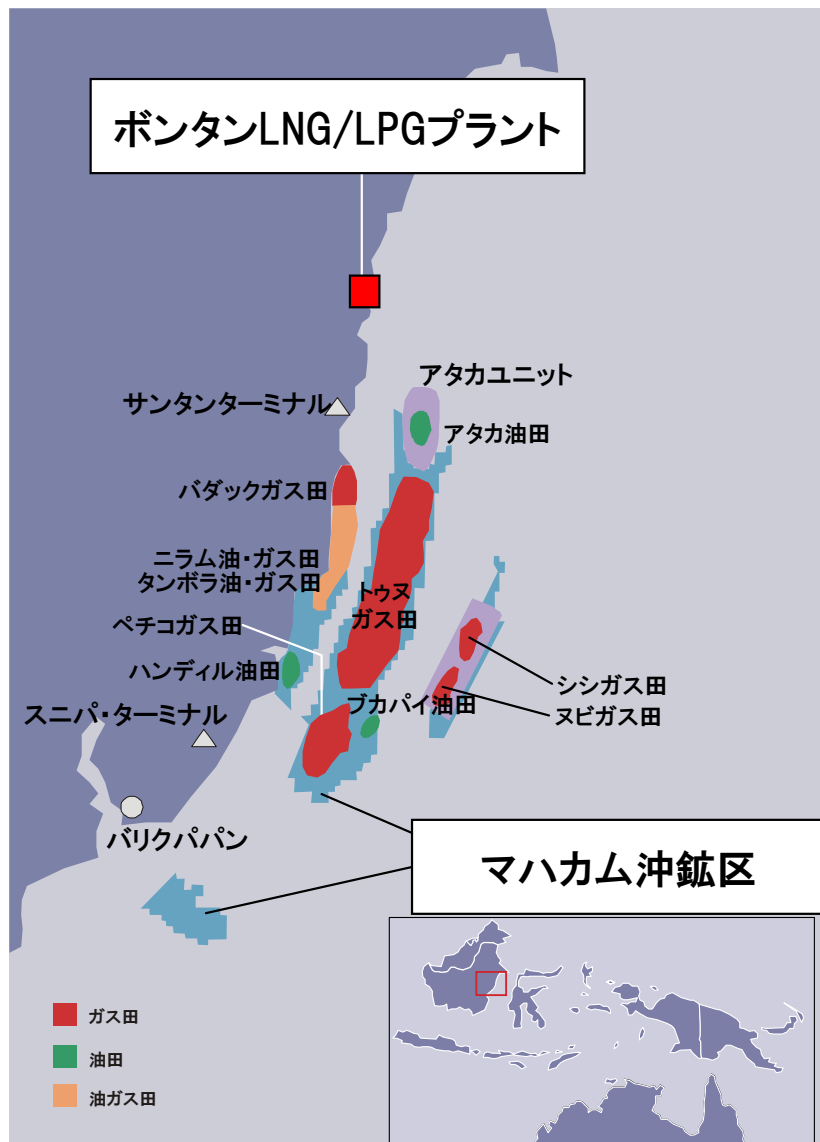
国内天然ガス価格

価格環境

単位あたりの価格比較



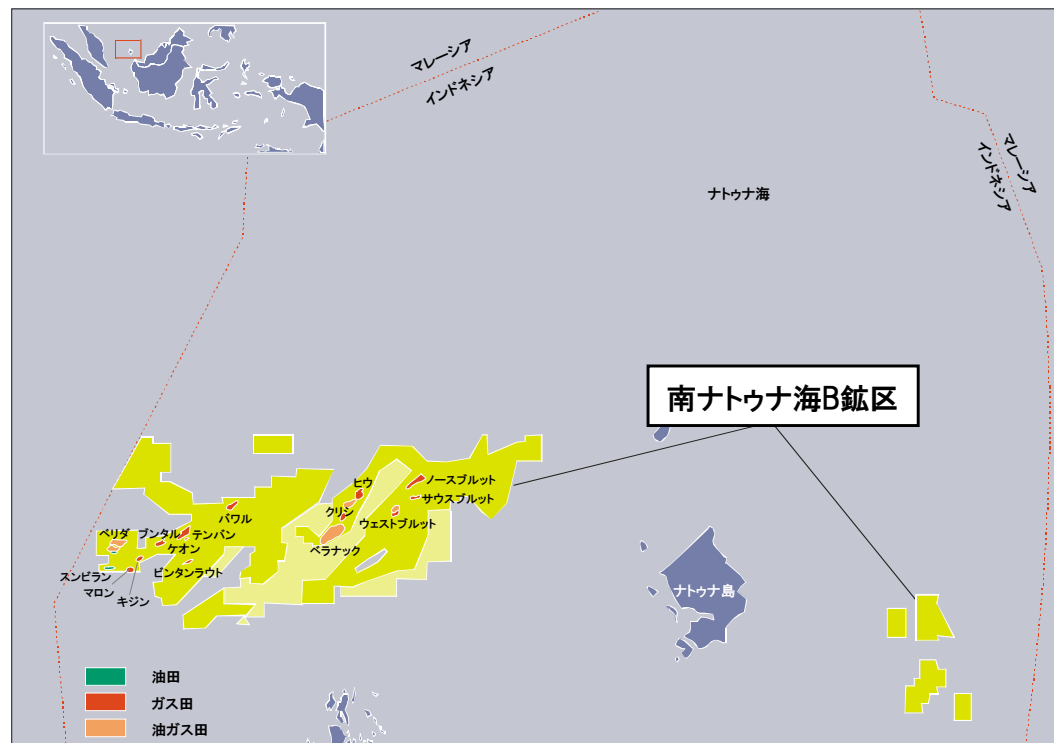
マハカム沖鉱区 国際石油開発(INPEX)



注: * 全鉱区ベース、2007年3月平均日産量

- 当社権益比率: 50%
(オペレーター: TOTAL)
- 生産量*
 - 原油: 日量約6万6千バレル
 - 天然ガス: 日量約29億立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ボンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
 - トウヌ/ペチコガス田の段階的開発
 - タンボラ油・ガス田の追加開発
 - シシ/ヌビ ガス田の開発

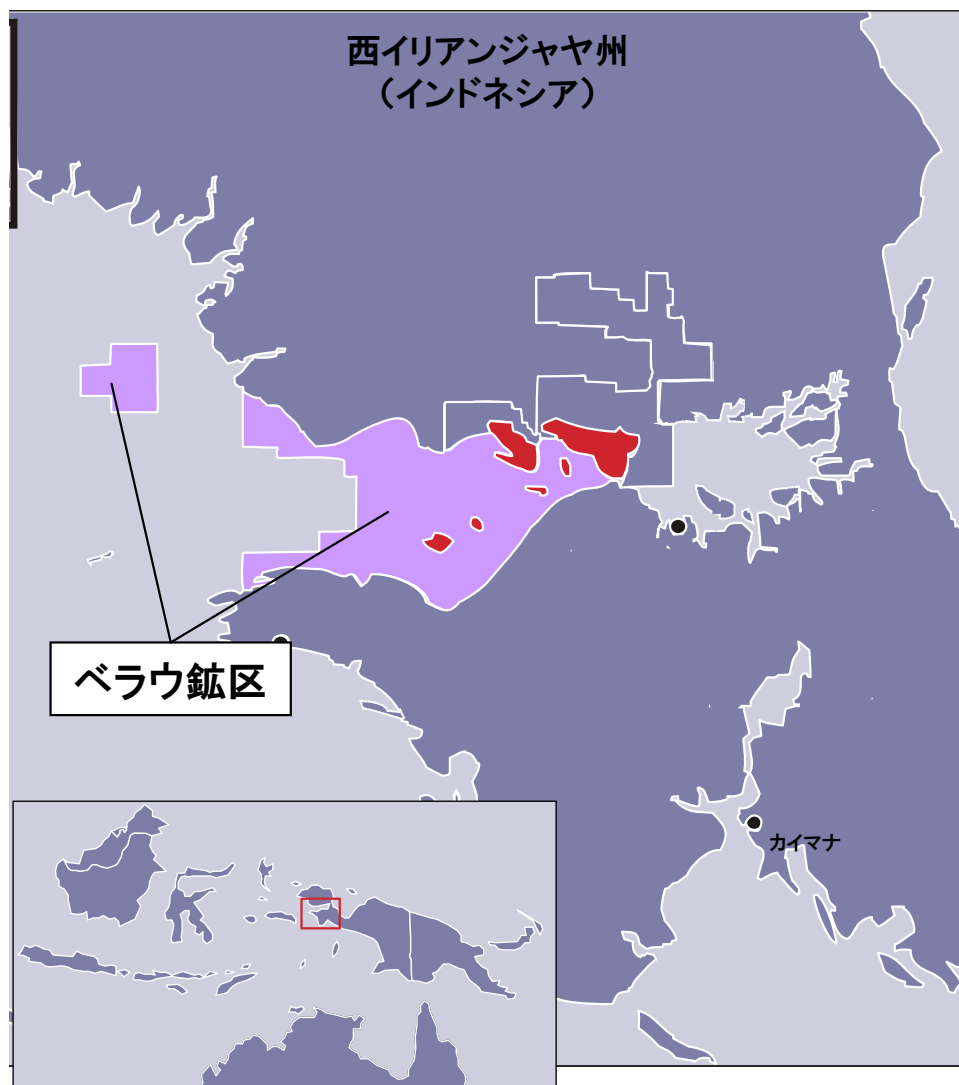
南ナトゥナ海B鉱区 ナトゥナ石油



* 全鉱区ベース、2007年3月平均日産量

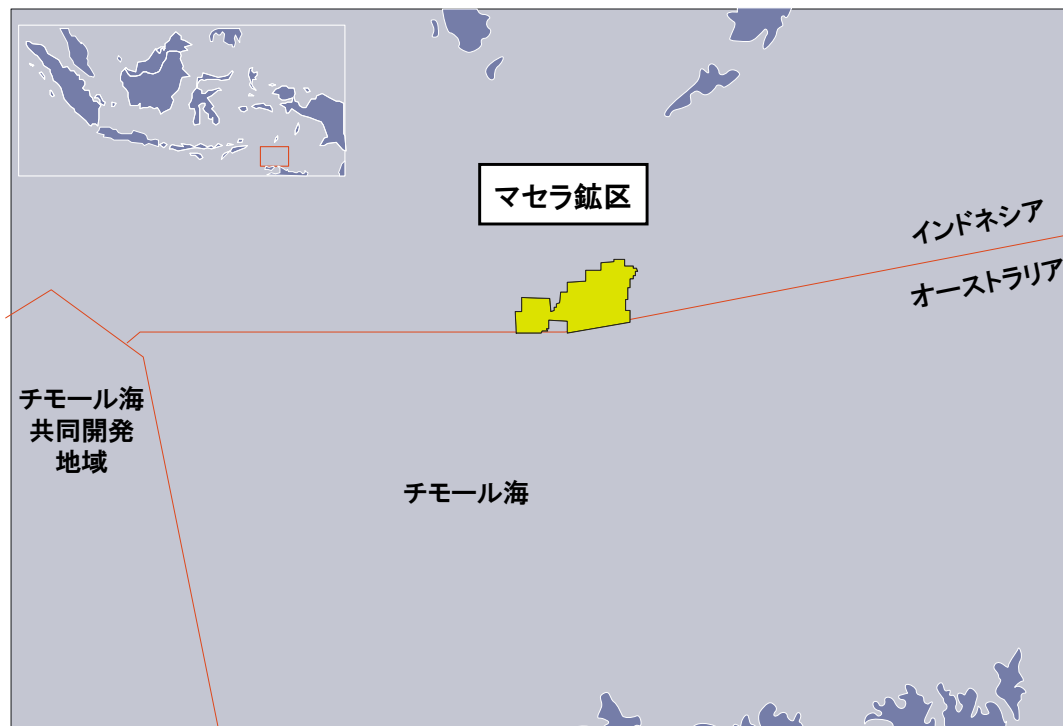
- 当社権益比率: 35.0%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*:
 - 原油: 日量約3万5千バレル
 - 天然ガス: 日量約3億7千万立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 世界有数規模のFPSOで操業を行うベラナック油ガス田では2004年12月より原油・コンデンセートの生産を開始、2007年4月よりLPGの生産を開始
- クリシ油ガス田は2007年末生産開始を予定、ノースブルットガス田は2009年生産開始を予定

ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト)MI Berau B.V.



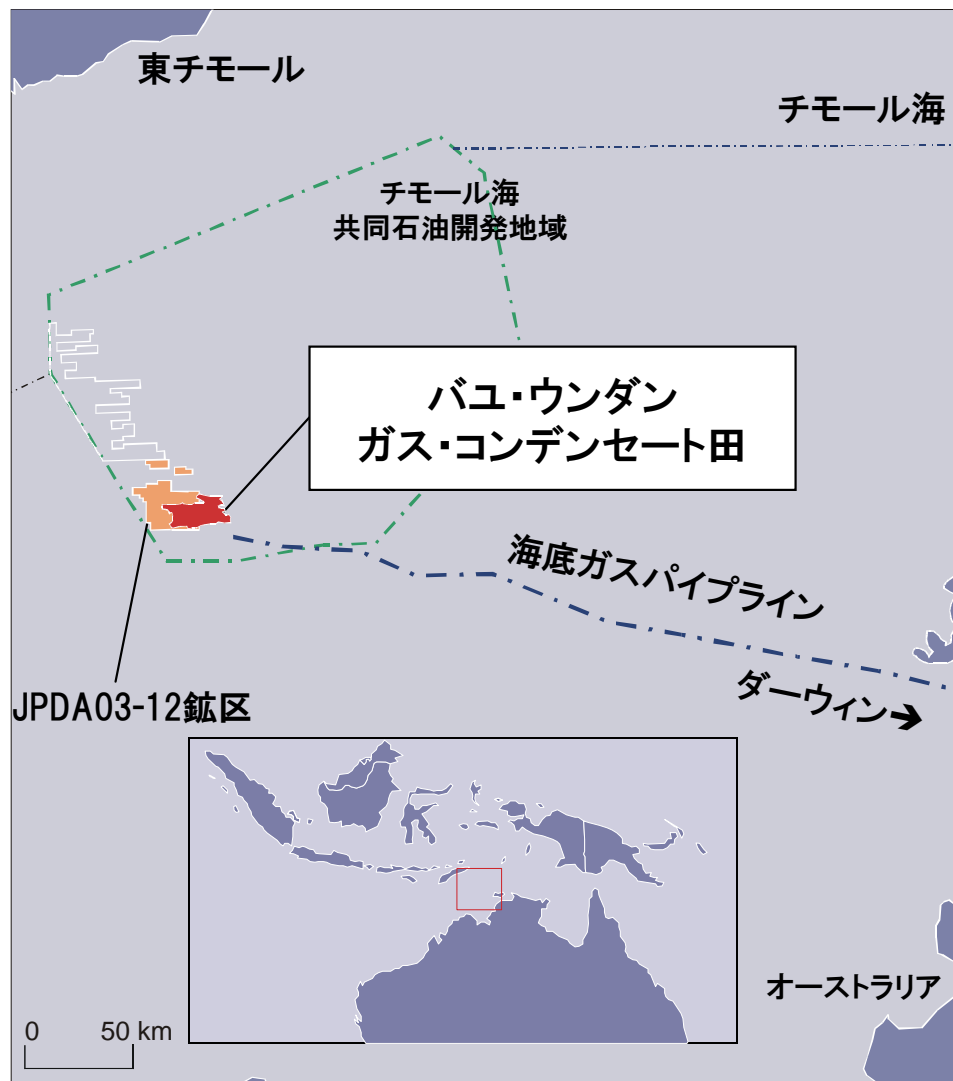
- MI Berau: 三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)
- MI Berauの権益比率
 - ベラウ鉱区: 22.9%(タンゲー・ユニット: 16.3%)(オペレーター:BP)
- PS契約: 2035年まで
- インドネシア政府より、開発計画、生産分与契約の延長についての承認取得
- 2006年8月にLNGプロジェクト開発費用として、総額約26億米ドルの融資契約を締結
- 建設中のLNGプラントは2008年後半生産開始予定
 - 年間760万トンのLNGを生産する計画
 - 中国福建省向けLNG長期販売契約を締結
 - 韓国POSCO社及びK-Power社とLNG販売契約を締結
 - 米国Sempra社とLNG販売契約を締結

マセラ鉱区(アバディ) インペックスマセラアラフラ海石油



- 当社権益比率: 100.0%
- オペレーター: 当社
- PS契約:
 - 探鉱期間10年間(2008年まで)
 - 開発・生産期間30年間(2028年まで)
- 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見
- 2002年に評価井2坑を掘削、アバディ構造が大規模ガス田であることを確認
- 2007年5月より評価井4坑の掘削を開始
- 2008年に可採埋蔵量の第三者査定を取得予定

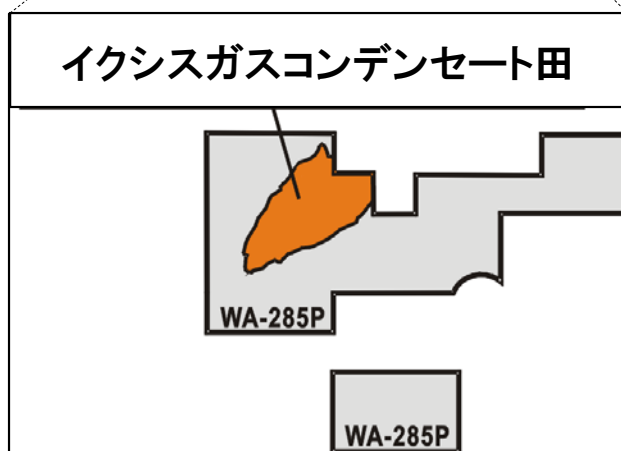
バユ・ウンダン サウル石油



注: * JPDA03-12(エラン・カカトゥアを含む)全鉱区ベース、2007年3月平均日産量

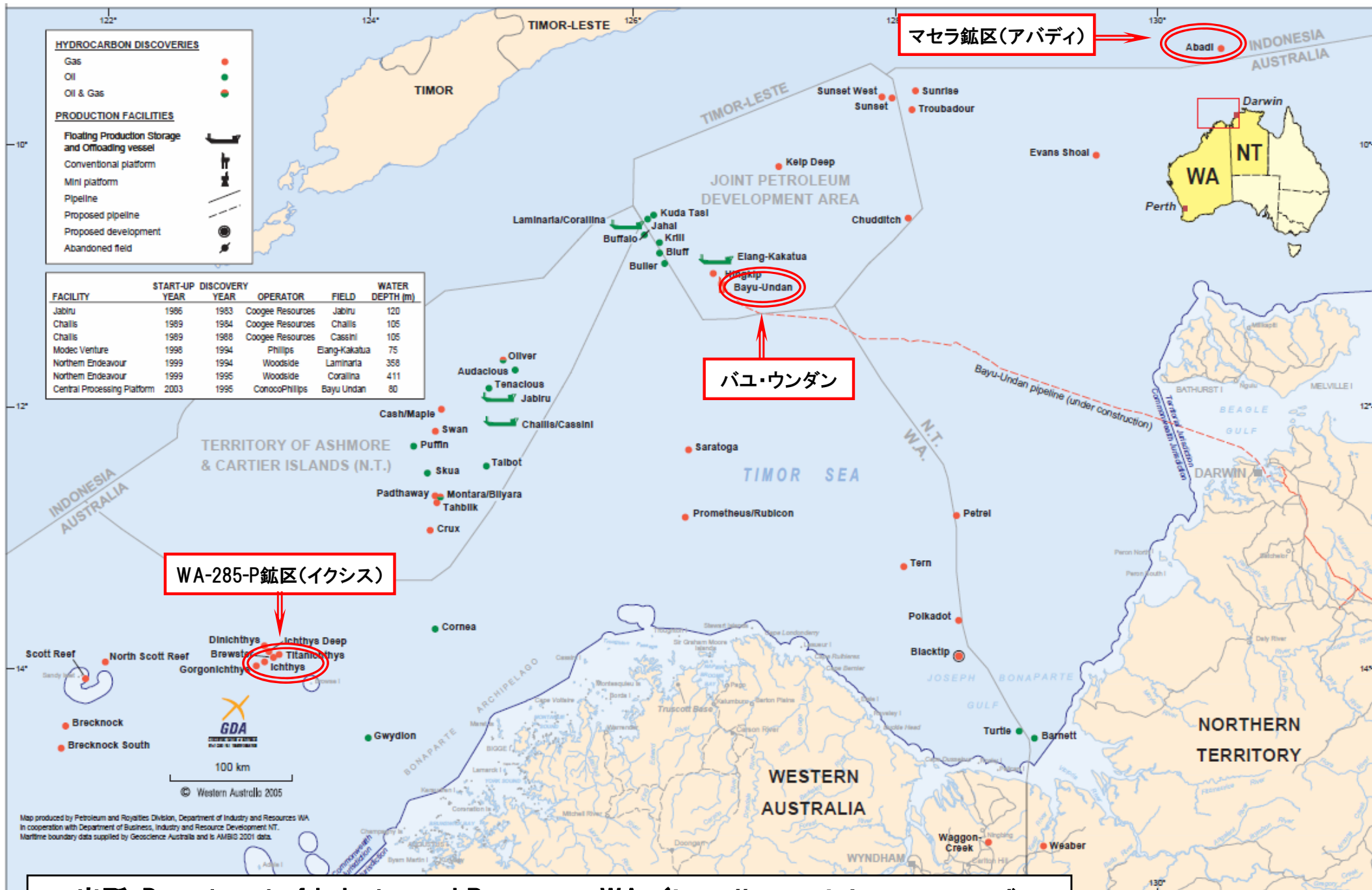
- 当社権益比率: 10.53%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*:
 - 原油・コンデンセート: 日量約6万9千バレル
 - 天然ガス: 日量約11億立方フィート
 - LPG: 日量約3万4千バレル
- PS契約: 2022年まで
- コンデンセート及びLPGの開発を目的としたフェーズ1については、2004年2月にコンデンセート/LPG販売開始
- フェーズ2はLNGプロジェクトであり、2006年2月にLNG販売開始
 - 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、プラト一時年間300万トン)

WA-285-P鉦区(イクシス) インペックス西豪州ブラウズ石油

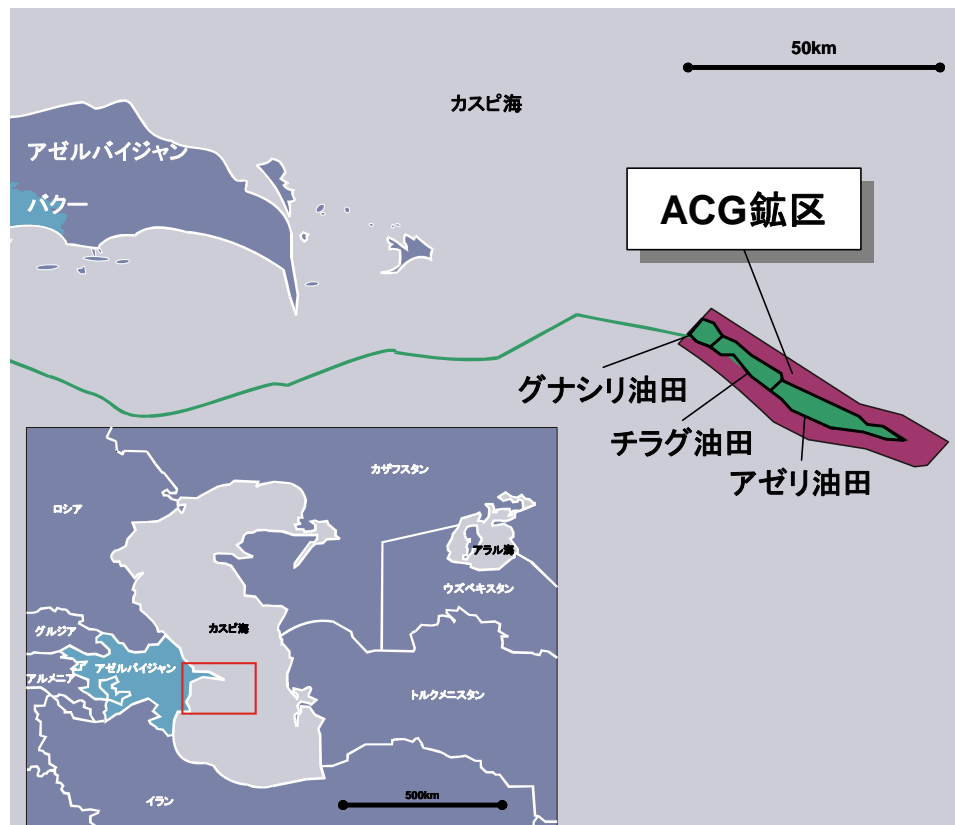


- 当社権益比率: 76.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
 - 探鉦期間 2009年9月まで
 - 生産期間 生産ライセンス付与から21年(延長可)
- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2006年8月、長期にわたり豪州経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- ガス埋蔵量の拡大を目的とした試掘井を2007年4月より掘削開始
- 2012年のLNG生産開始を目標に開発検討作業を実施中。初期段階での生産・販売量はLNGを年間約760万トン、LPGおよびコンデンセートを日産約10万バーレルを予定

マセラ鉱区およびWA-285-P鉱区の位置



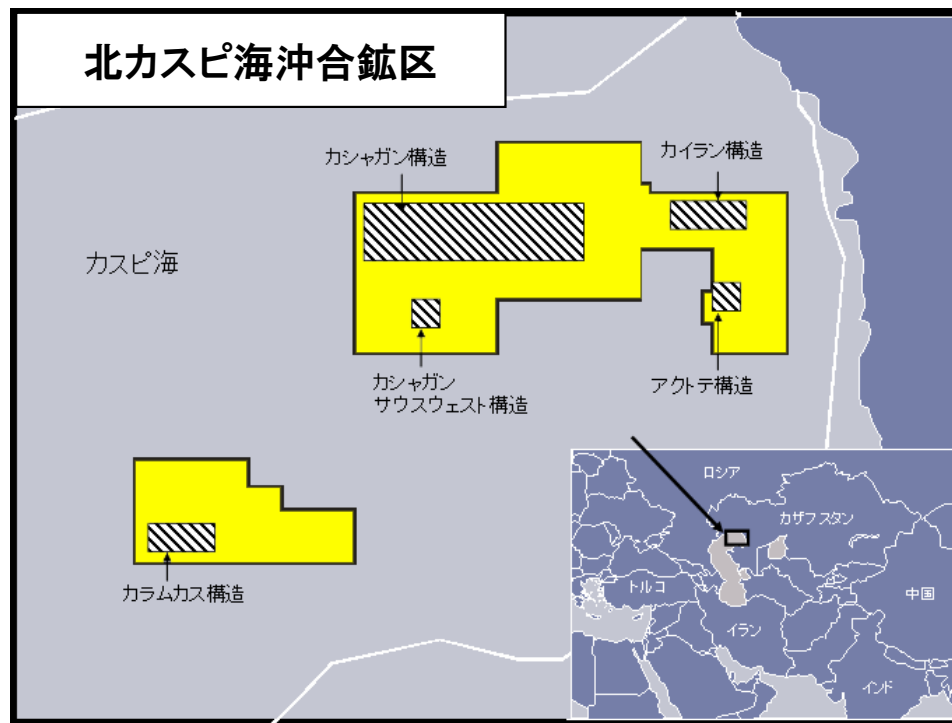
ACG油田 インペックス南西カスピ海石油



注: * 全鉱区ベース、2007年3月平均日産量

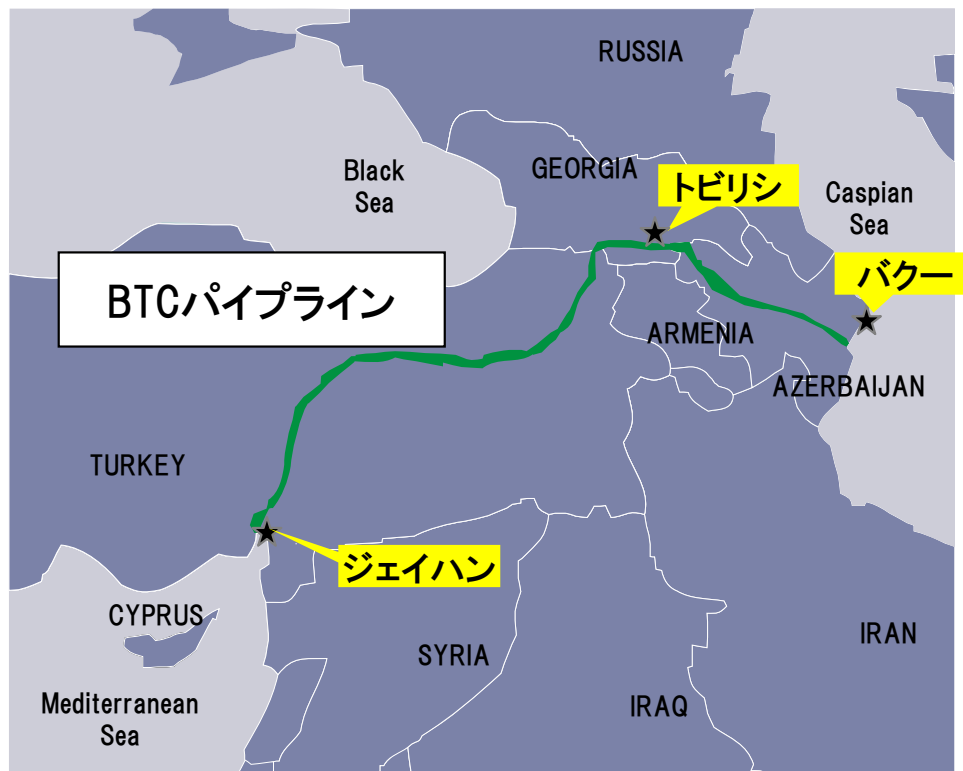
- 当社権益比率: 10.0%(オペレーター:BP)
- 生産量*: 日量約70万バレル
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田は1997年に生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部は2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部は2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部は2006年10月に生産開始
- 2009年に日量100万バレル達成予定
 - フェーズ3開発(グナシリ油田深海部):2008年第2四半期に生産開始予定

カシャガン油田他 インペックス北カスピ海石油



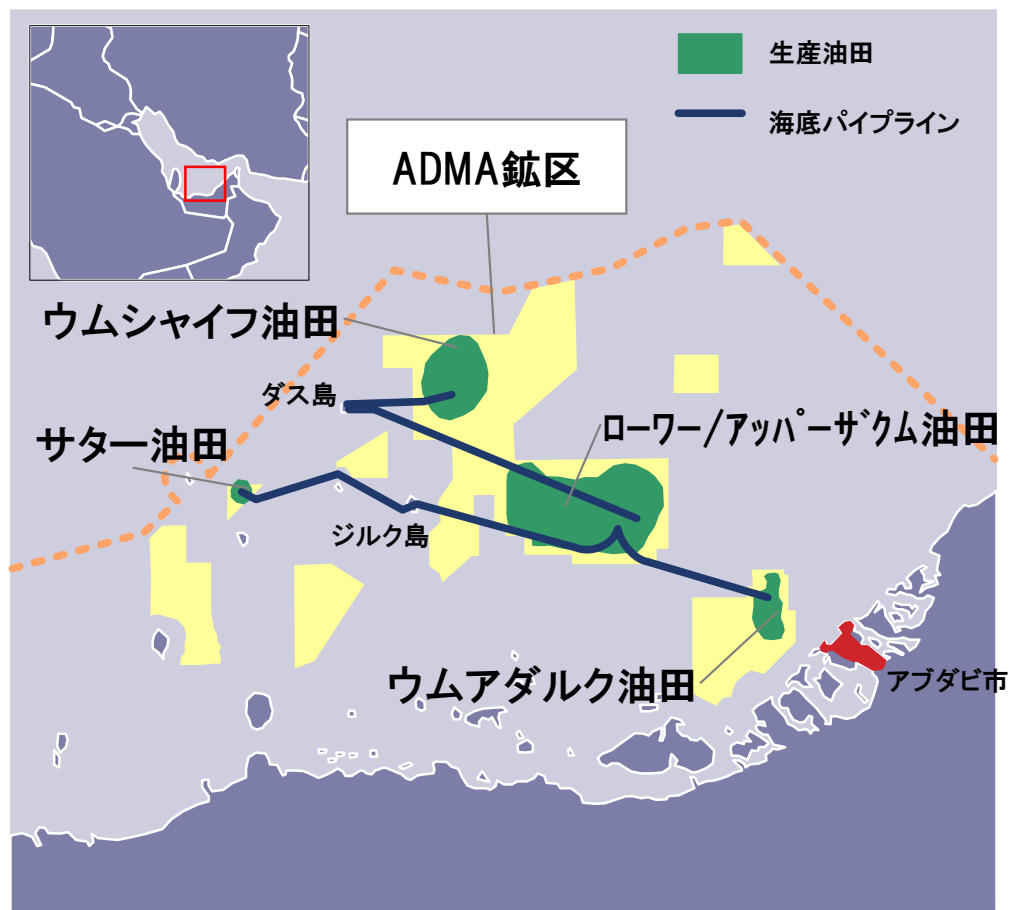
- 当社権益比率: 8.33%(オペレーター:Eni)
- PS契約: 2021年末まで
- 2000年6月カシャガンにおいて原油発見、2004年4月までに試・探掘井7坑で原油を確認
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カラン/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 2004年2月カシャガン開発計画のカザフスタン政府承認
 - 2008年生産開始予定(当初計画)
 - 2007年央を目途に安全性・稼働率向上の検討を実施中であり、上記開発計画は見直される予定

BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.



- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月に操業会社BTC Co.の発行済み株式をINPEX BTC Pipeline, Ltd.が取得
- 2004年2月、パイプライン建設の資金調達を目的とするプロジェクトファイナンス契約調印
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2007年4月、累計1億バレル出荷
- 2007年第2四半期、輸送能力日量100万バレルを達成予定

ADMA鉦区 ジャパン石油開発



- ウムシャイフ／ローワーザクム
 - 当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO*)
 - アッパーザクム／ウムアダルク／サター
 - 当社権益比率:
アッパーザクム／ウムアダルク 12.0%
サター 40.0%(オペレーター: ZADCO*)
- *アブダビ国営石油会社とJODCOなどで設立した操業会社。JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。
- 利権契約: 2018年まで(2006年3月の修正共同開発協定締結によりアッパーザクム油田の権益期限は2026年まで延長)
 - 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
 - 全油田で水圧入を実施
 - ウムシャイフ／ローワーザクムでガス圧入を実施

アザデガン油田 アザデガン石油開発

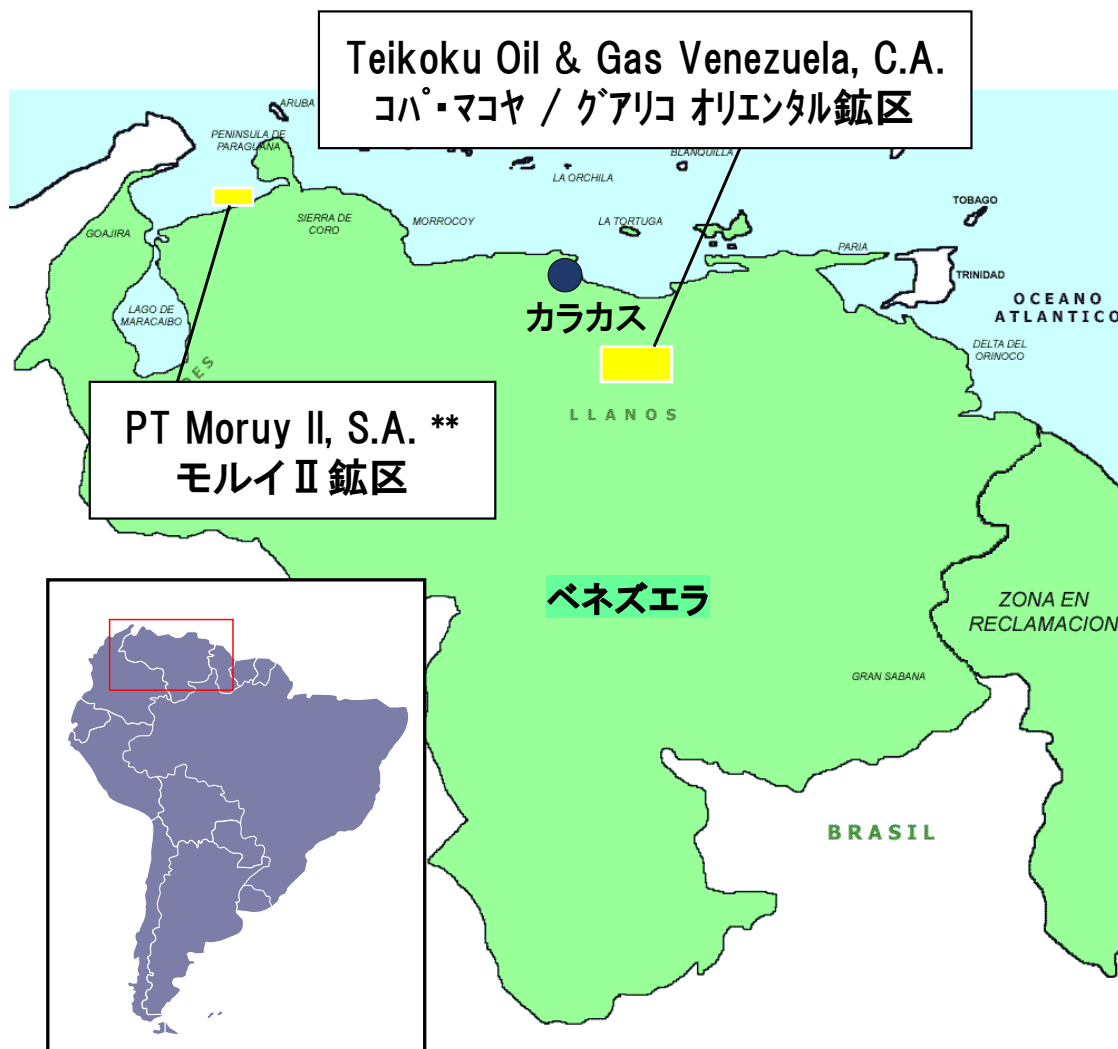


- 当社権益比率:10%
(イラン側と協議を継続中)
- サービス契約(バイバック契約)
- 油田開発プロジェクトは2段階*
 - 開発第1段階として2010年に日量15万バレルに達する計画
 - 開発第2段階へ移行した場合、2014年以降に日量26万バレルの生産に達する見込み

注:*全鉱区ベース、生産量達成時期は2007年後半に開発工事が開始されるとの前提。

ベネズエラ プロジェクト

Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか

コパ・マコヤ / グアリコ オリエンタル 鉱区

- ガス・原油探鉱・開発・生産事業
- ジョイントベンチャー契約
 - 2006-2026年
- ジョイントベンチャー出資比率
 - ガス事業:70%、原油事業:30%
- 生産量*
 - ガス:日量約81百万立方フィート
 - 原油:日量約1,700バレル

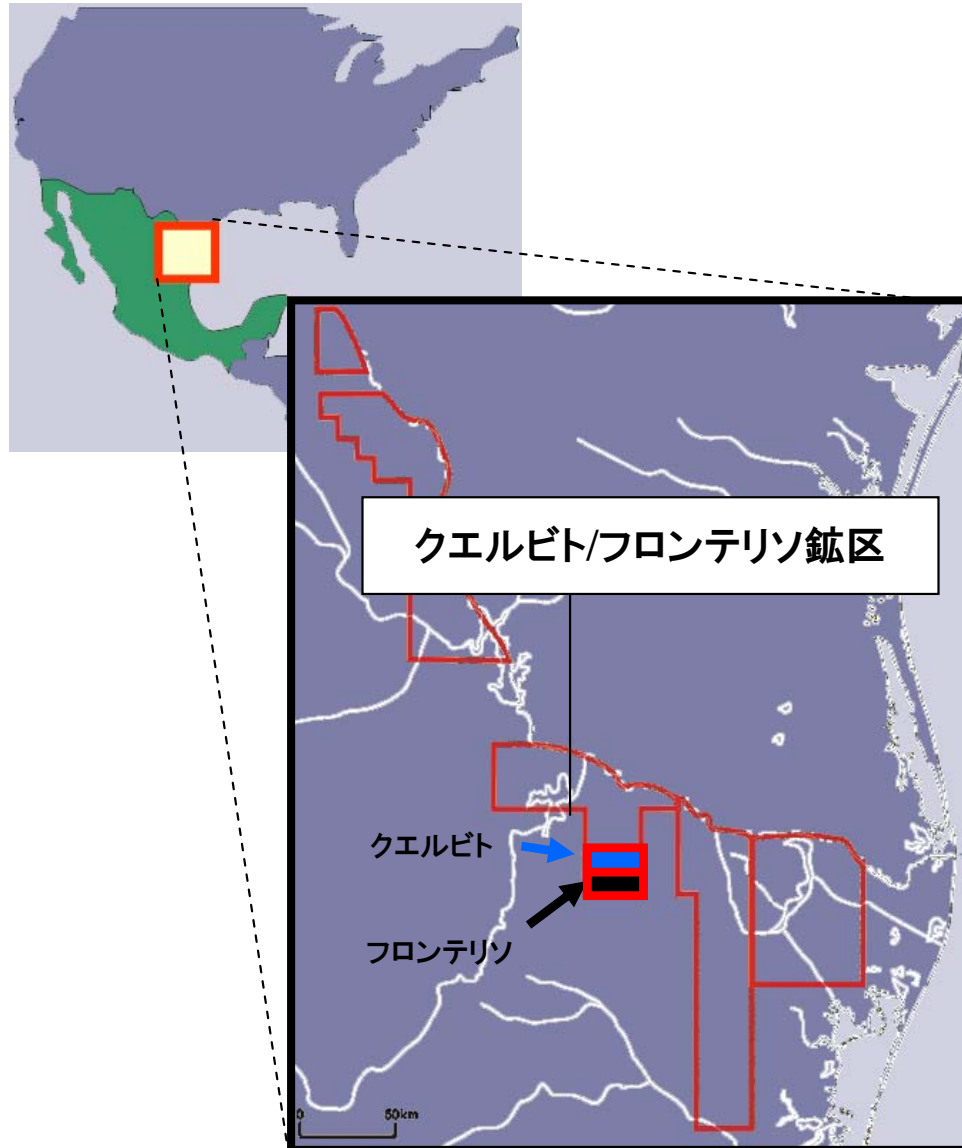
モルイ II 鉱区

- ガス探鉱事業
- 権益比率:50%(オペレーター:ペトロブラス)
- 現在、取得した地震探鉱データの処理作業を実施中

* 全鉱区ベース2007年3月平均日産量

** ペトロブラスと当社50:50の共同出資によるJV

クエルビト / フロンテリソ鉱区 テイコク・オイル・デ・ブルゴス*



クエルビト / フロンテリソ鉱区

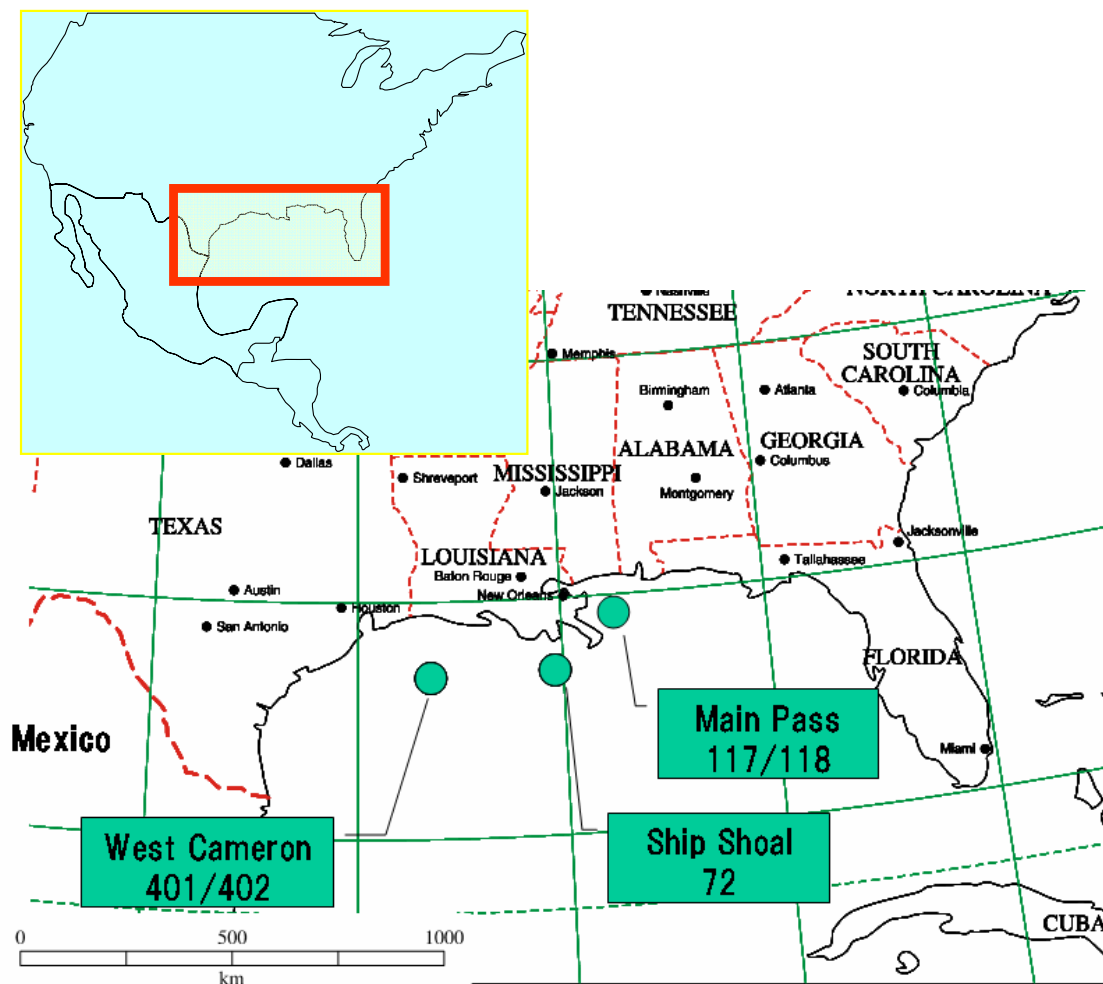
- ガス開発事業
- サービス契約
- 権益比率:40%
(オペレーター:ペトロブラス)
- 生産量** :日量約29百万立方フィート

* 当社株主シェア75%

**全鉱区ベース2007年3月平均日産量

米国メキシコ湾 プロジェクト

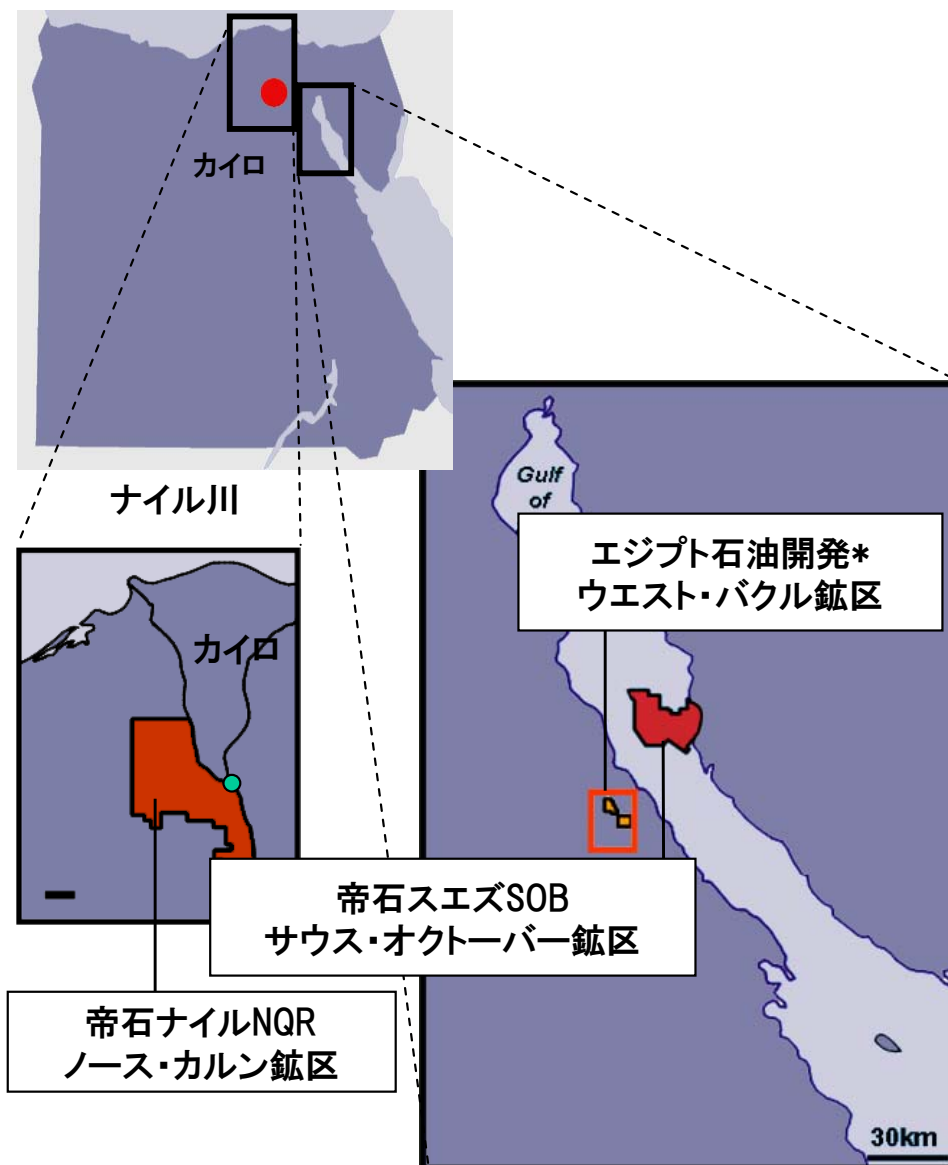
Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.



- 原油・ガス探鉱・開発事業
- コンセッション契約
- 権益比率
 - Ship Shoal 72 : 25%
 - West Cameron 401/402 : 25%
 - Main Pass 117/118 : 10%
- 生産量*
 - ガス: 日量約6.8百万立方フィート
 - 原油: 日量約1,600バレル

* Ship Shoal72鉱区2007年3月平均日産量

エジプト プロジェクト エジプト石油開発*ほか



ウエスト・バクル鉦区

- 原油・ガス探鉦・開発事業
- PS契約(1975-2020年+5年延長オプション)
- 権益比率:100%(オペレーター)
- 生産開始:1980年
- 生産量**: 日量約4,500バレル

サウス・オクトーバー鉦区

- 原油・ガス探鉦事業
- 権益比率:35%(オペレーター:デボン)
- 義務作業(3年):3D地震探査(270 km²)、試掘2坑

ノース・カルン鉦区

- 原油・ガス探鉦事業
- 権益比率:25%(オペレーター:デボン)
- 義務作業(3.5年):2D地震探査(550km)、試掘1坑

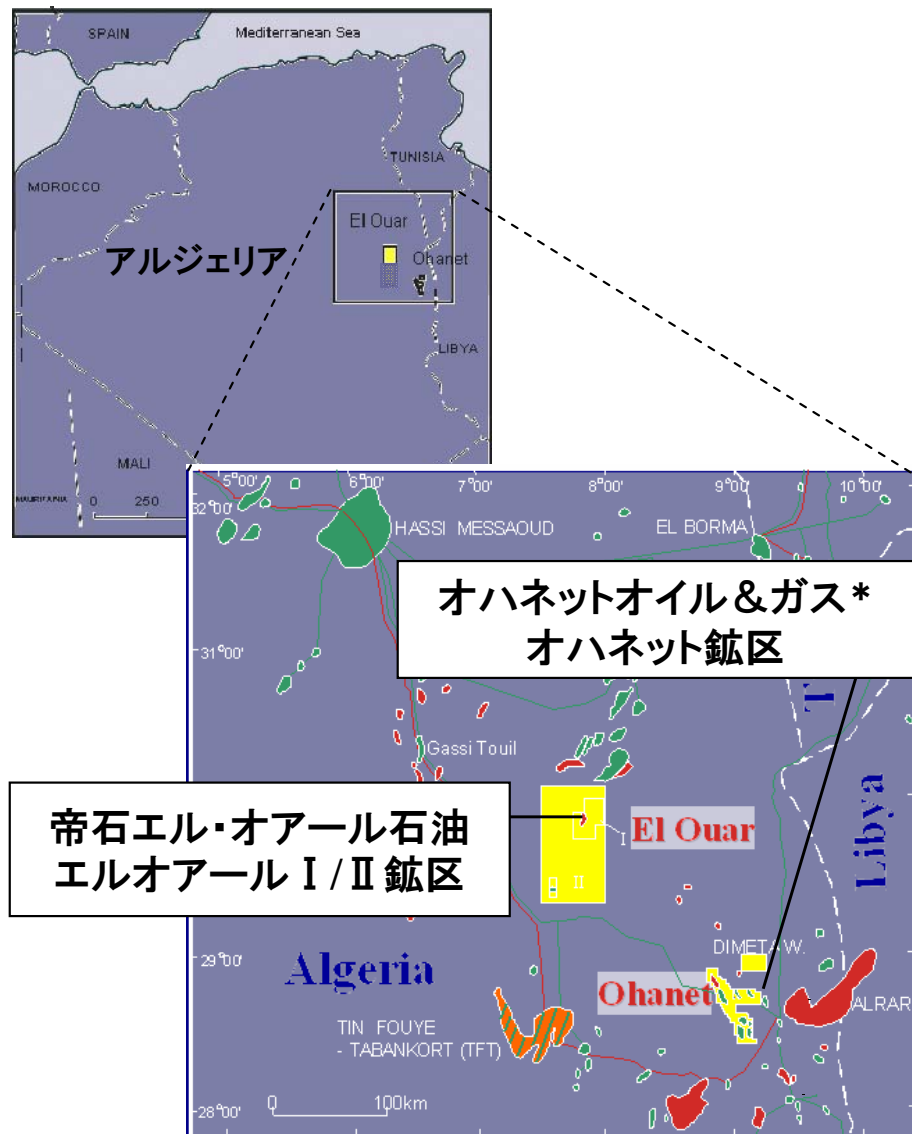
* 当社株主シェア52.7%

**全鉦区ベース2007年3月平均日産量

アルジェリア プロジェクト

オハネットオイルアンドガス*(オハネット鉱区)

帝石エル・オアール石油(エル・オアール I / II 鉱区)



オハネット鉱区

- ガス開発事業
- リスクサービス契約(2000-2011年)
- 権益比率:30%(オペレーター:BHPB)
- 生産開始:2003年10月
- 生産量**
 - ドライガス: 日量約591百万立方フィート
 - コンデンセート: 日量約27,000バレル
 - LPG: 日量約2,100トン

エル・オアール I / II 鉱区

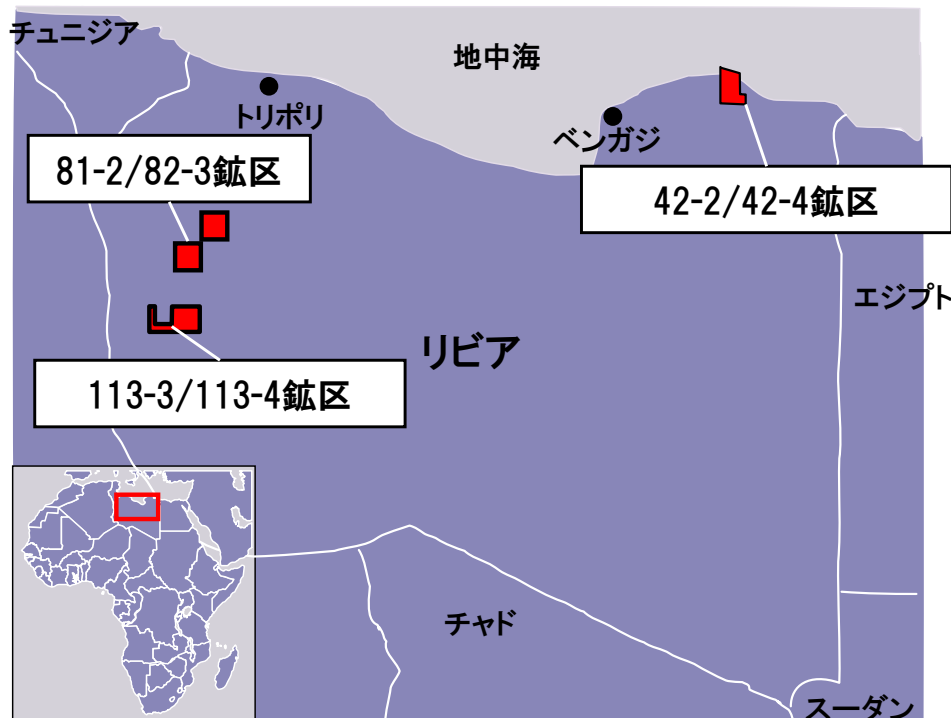
- 原油・ガス探鉱・開発事業
- コンセッション契約
- 周辺鉱区との共同開発を含めたガス・コンデンセート田の開発移行につき検討中
- 権益比率:10.29%(オペレーター:ENI)

* 当社株主シェア15%

**全鉱区ベース2007年3月平均日産量

リビアプロジェクト

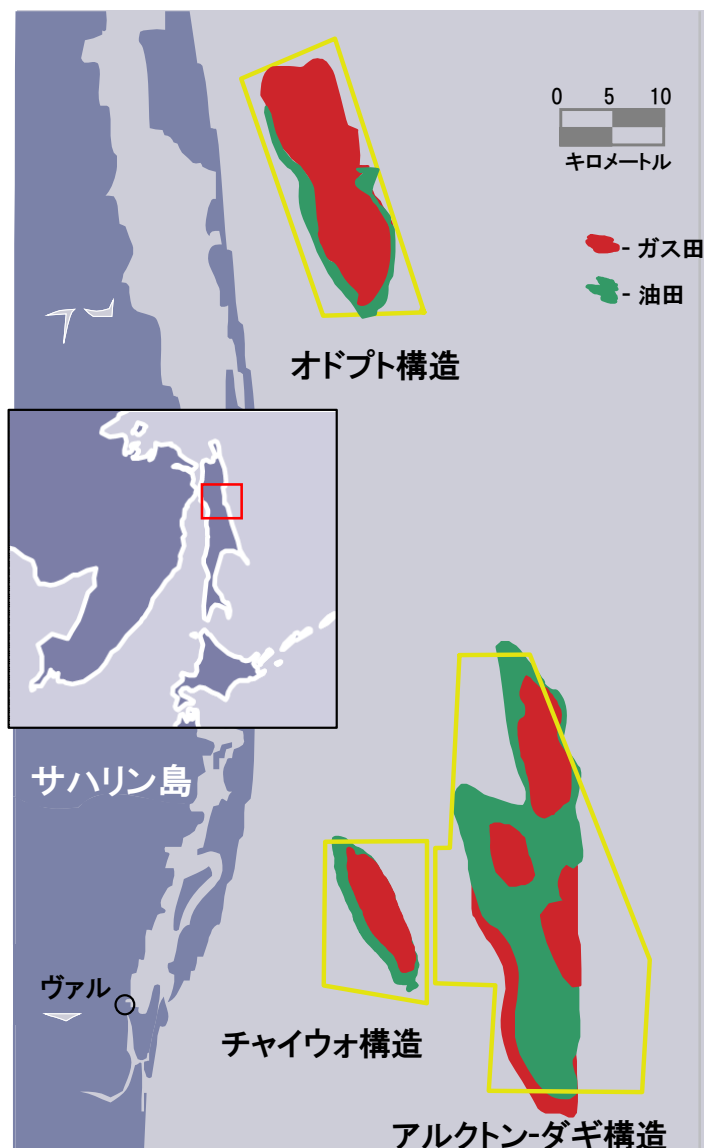
Teikoku Oil Libya UK Ltd
インペックスリビア石油



- 原油・ガス探鉱事業
- PS契約(探鉱契約5年間)
- 権益比率
 - 81-2/82-3鉱区:73%(オペレーター)
 - 42-2/42-4鉱区:40%(オペレーター:TOTAL)
 - 113-3/113-4鉱区:85%(オペレーター)
- 作業現況
 - 81-2/82-3鉱区:3D/2D地震探鉱実施中
 - 42-2/42-4鉱区:2D地震探鉱準備作業中
 - 113-3/113-4鉱区:2007年2月PS契約調印
- 2008年初頭より試掘作業実施予定(81-2/82-3鉱区)

サハリン I

サハリン石油ガス開発



- サハリン石油ガス開発(SODECO):
当社グループが5.75%の株式を保有
(石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得する方向で調整中)
- SODECOの権益比率: 30.0%
- オペレーター: ExxonMobil
- パートナー: ONGCヴィデッシュ、サハリンモルネフテガス・シェルフ、RNアストラ
- PS契約: 2001年12月、プロジェクトの「商業性宣言」がロシア政府より承認され、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 天然ガスをロシア国内に供給。さらに中国等へ輸出を検討中

東シナ海

帝国石油



- 1969年：試掘権を出願
- 1981・84年：地震探鉱を実施
- 1992年：中国側が平湖油・ガス田を発見、1998年生産を開始
- 1997～1999年：石油公団が地震探鉱を実施
- 2004～2005年：石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が地震探鉱を実施
- 2005年4月：経済産業省が試掘権設定のための処理手続きを開始、これを受け、九州経済産業局に対して、当社出願42,000km²のうち3エリア(約400km²)の試掘権設定の願いを提出
- 2005年7月：同3エリアの試掘権が付与され、8月に鉱業権設定が完了
- 今後の作業開始にあたっては、作業の安全確保を最優先に、日中政府間協議の動向を見守ると共に、関係官庁等と協議した上で判断

グループ主要出資先会社

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	出資比率	ステージ
日本				
帝国石油	南長岡ガス田ほか*	日本	100%	生産中
東南アジア/オセアニア				
国際石油開発(INPEX)	マハカム沖鉱区	インドネシア	100%	生産中
ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	100%	生産中
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲールLNG)	インドネシア	44%	開発中
インペックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)*	インドネシア	51%	開発検討中
サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	100%	生産中
インペックス西豪州ブラウズ石油	WA-285-P鉱区(イクシス)*	オーストラリア	100%	開発検討中
中東				
ジャパン石油開発	ADMA鉱区(アッパー・ザクム油田等)	アラブ首長国連邦	100%	生産中
アザデガン石油開発	アザデガン油田	イラン	100%	開発中
カスピ海沿岸				
インペックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	51%	生産中
インペックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	45%	開発中
中南米				
テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパマコヤ*/グアリコオリエンタル	ベネズエラ	100%	生産中
テイコク・オイル・エクアドル	B18**/B31鉱区**	エクアドル	100%	生産中(B31:開発中)
テイコク・オイル・デ・ブルゴス	クエルビト/フロンテリソ鉱区	メキシコ	75%	生産中
テイコク・オイル(ノース・アメリカ)	Ship Shoal 72、West Cameron 401/402、Main Pass 117/118	米国	100%	生産中
アフリカ				
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	100%	生産中
エジプト石油開発	ウエスト・バクル鉱区*	エジプト	52.7%	生産中
オハネットオイルアンドガス	オハネット鉱区	アルジェリア	15%	生産中
帝石エル・オアール石油	エル・オアール I / II 鉱区	アルジェリア	100%	開発検討中

注: *オペレータープロジェクト

**権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

主な石油契約の概要①

鉱区	国・地域	石油契約
マハカム沖／アタカユニット	インドネシア	PS契約
南ナトウナ海B	インドネシア	PS契約
ベラウ(タンゲー)	インドネシア	PS契約
マセラ(アバディ)	インドネシア	PS契約
JPDA03-12(バユ・ウンダン)	チモール海共同石油開発地域	PS契約
WA-10-L(グリフィン油田群)	オーストラリア	コンセッション契約
WA-285-P(イクシス)	オーストラリア	コンセッション契約
北カスピ海沖合(カシャガン他)	カザフスタン	PS契約
ACG油田	アゼルバイジャン	PS契約
ウムシャイフ／ローワーザクム／ アッパーザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション契約
アザデガン油田	イラン	サービス契約

主な石油契約の概要②

鉱区	国・地域	石油契約
コパ・マコヤ / グアリコ オリエンタル	ベネズエラ	コンセッション契約 (ジョイントベンチャー契約)
B18* / B31*	エクアドル	コンセッション契約
クエルビト / フロンテリソ	メキシコ	サービス契約
Ship Shoal 72、 West Cameron 401/402、 Main Pass 117/118	米国	コンセッション契約
コンゴ民主共和国沖合	コンゴ民主共和国	コンセッション契約
ウエスト・バクル	エジプト	PS契約
オハネット	アルジェリア	サービス契約 (リスクサービス契約**)
エル・オアール I / II	アルジェリア	コンセッション契約

*権益移転に係る政府承認手続中であり、当該契約は政府承認を得た後、正式に発効する予定であります。

**リスク付き開発請負契約

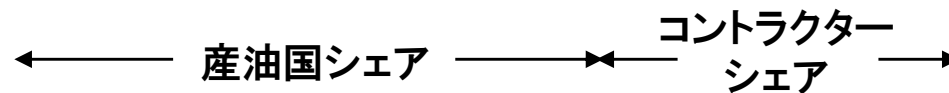
その他

生産分与契約



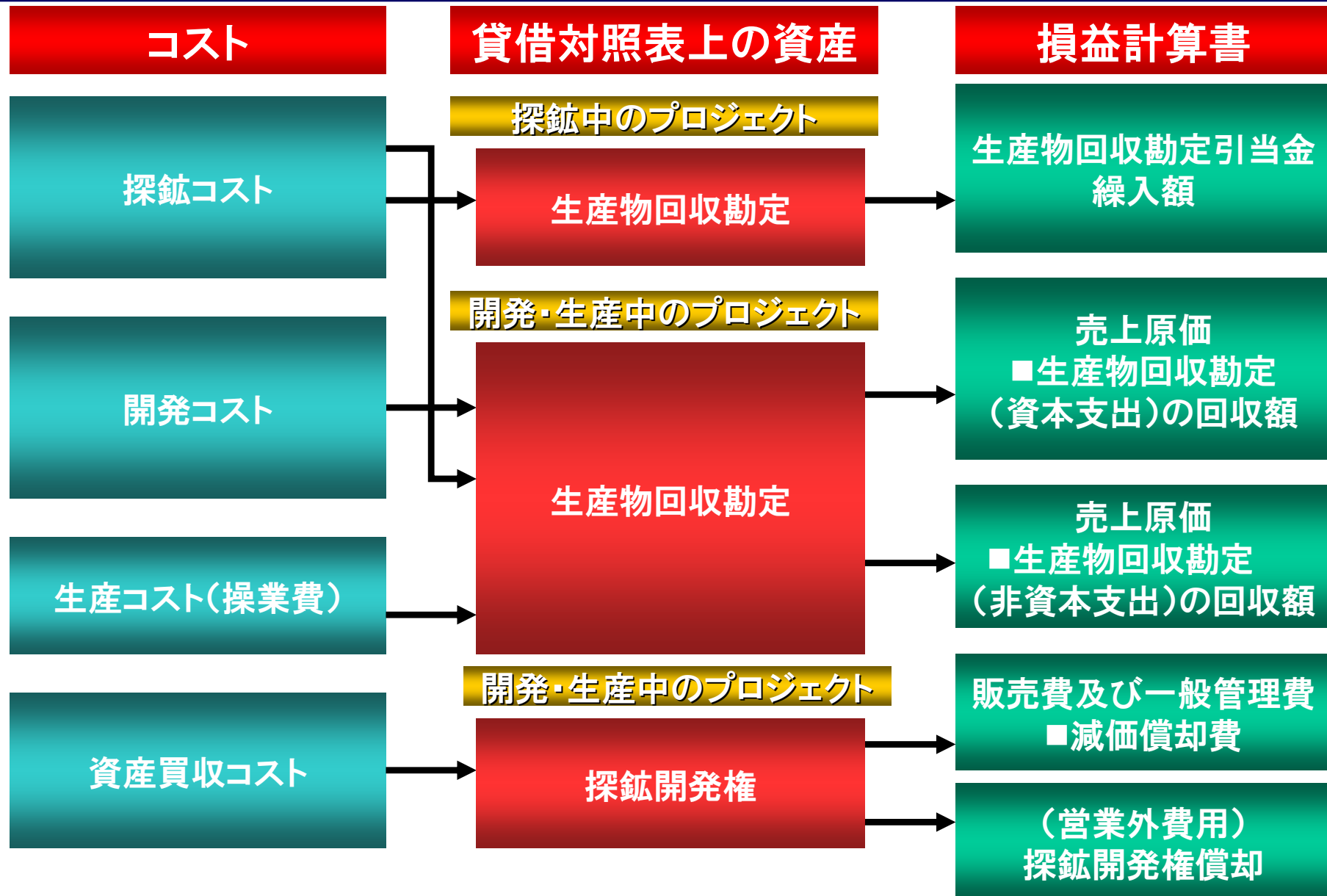
1. 作業費回収額
- 非資本支出の当該期回収額
 - 資本支出の当該期回収額
 - 前期以前に発生し回収されなかったコスト

2. 利益配分原油

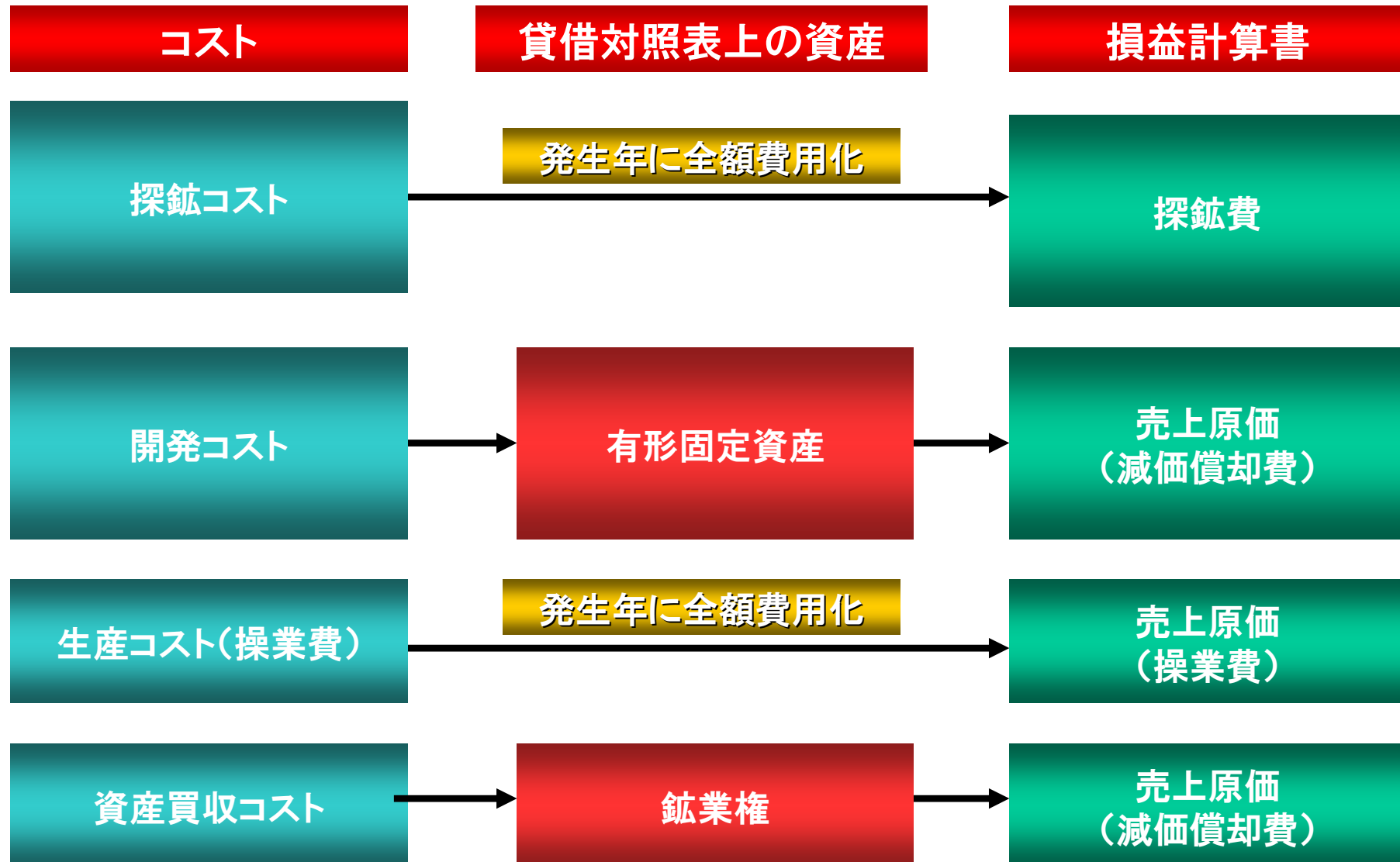


- : 産油国取分
 - : 課税対象
 - : 課税対象ではない
- } コントラクター取分

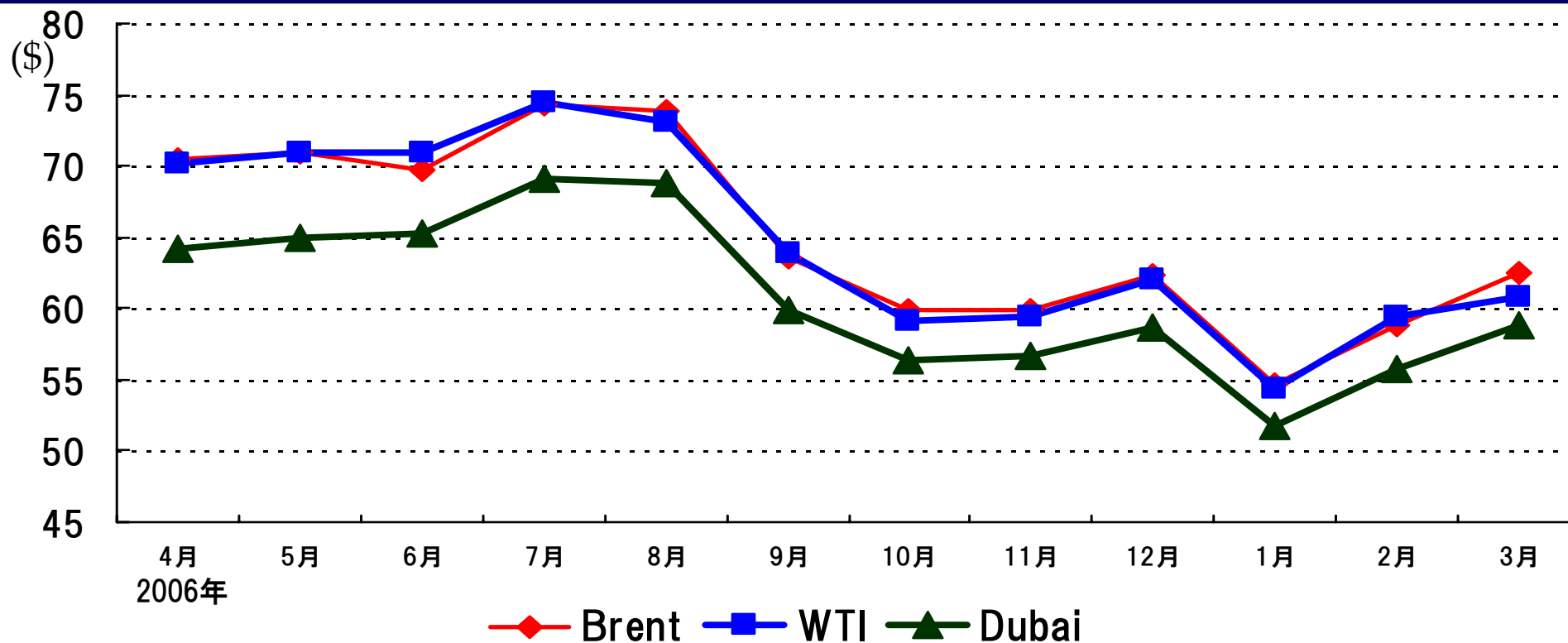
生産分与契約に係る会計処理



コンセッション契約に係る会計処理

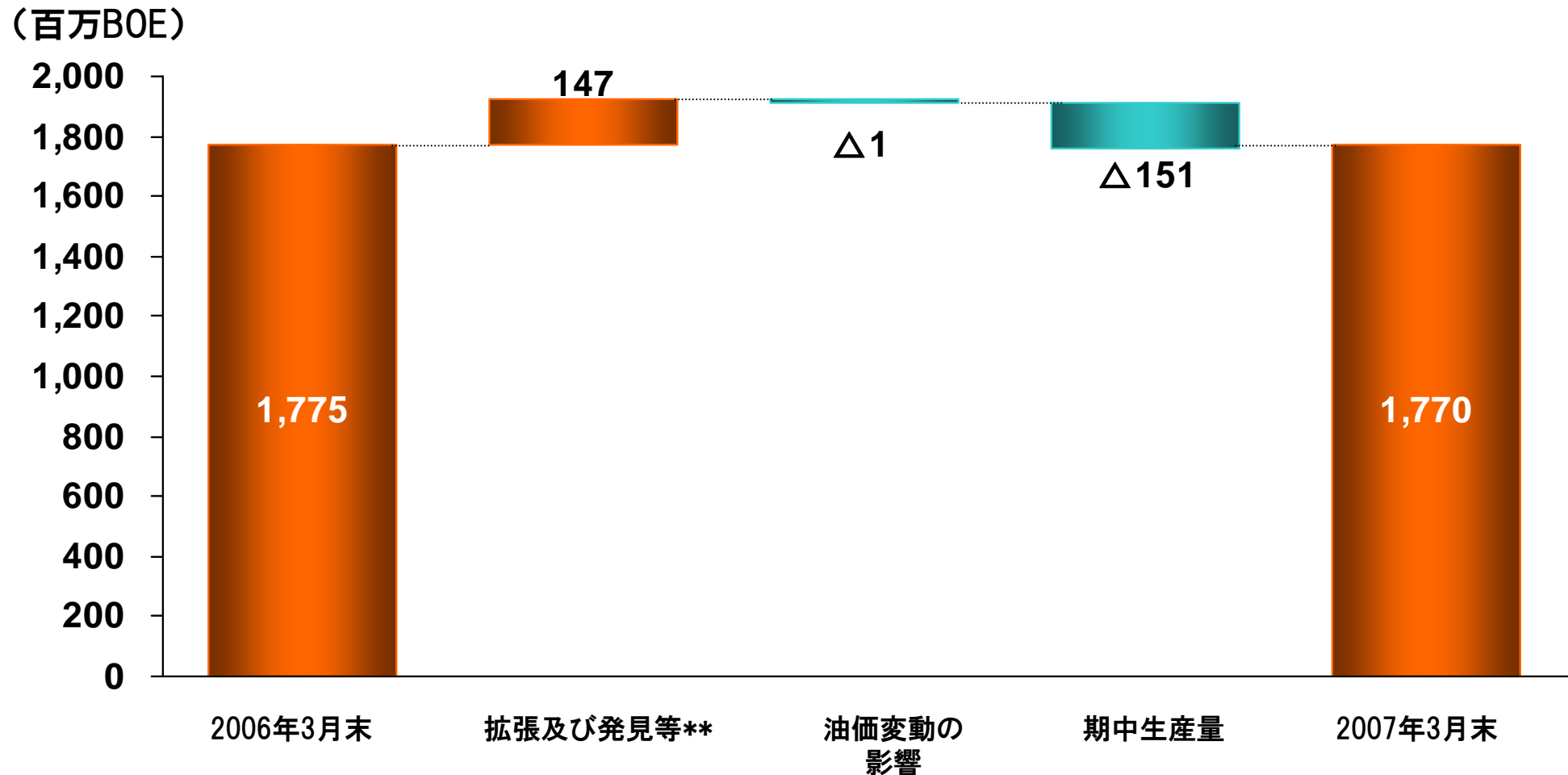


油価の推移



	06.3期	2006年												2007年	07.3期
	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
Brent	58.78	70.54	70.98	69.78	74.26	73.90	63.64	59.84	59.86	62.29	54.62	58.84	62.46	65.08	
WTI	59.96	70.16	70.96	70.97	74.46	73.08	63.9	59.14	59.40	62.09	54.35	59.39	60.74	64.89	
Dubai	53.50	64.14	65.00	65.22	69.17	68.77	59.82	56.42	56.72	58.68	51.69	55.75	58.80	60.85	

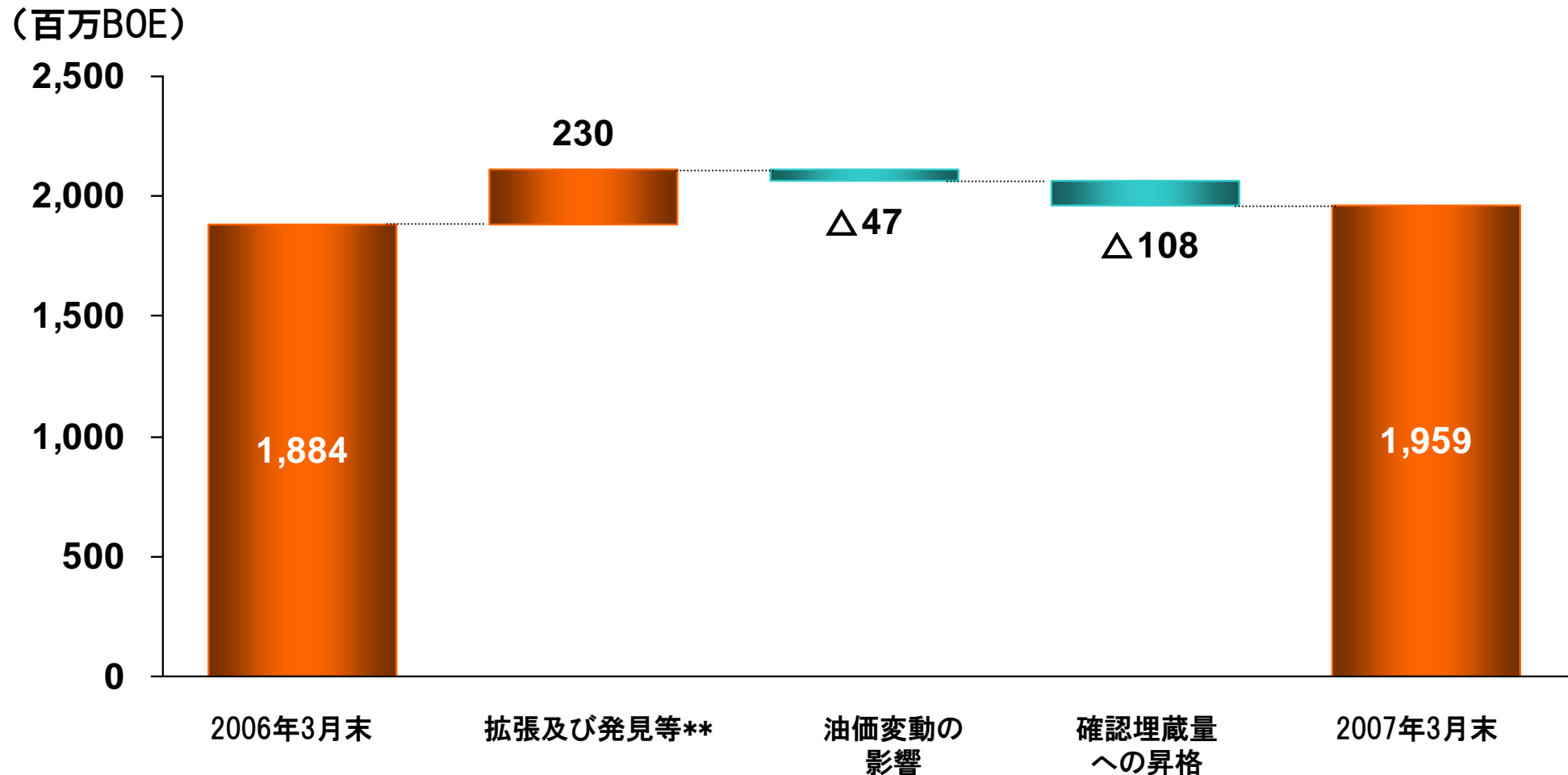
確認埋蔵量*の推移の要因分析



* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。

**買収及び売却、技術評価見直し、推定埋蔵量からの昇格等を含む。

推定埋蔵量*の推移の要因分析



*推定埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)の基準に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。

**買収及び売却、技術評価見直し等を含む。

確認埋蔵量の定義

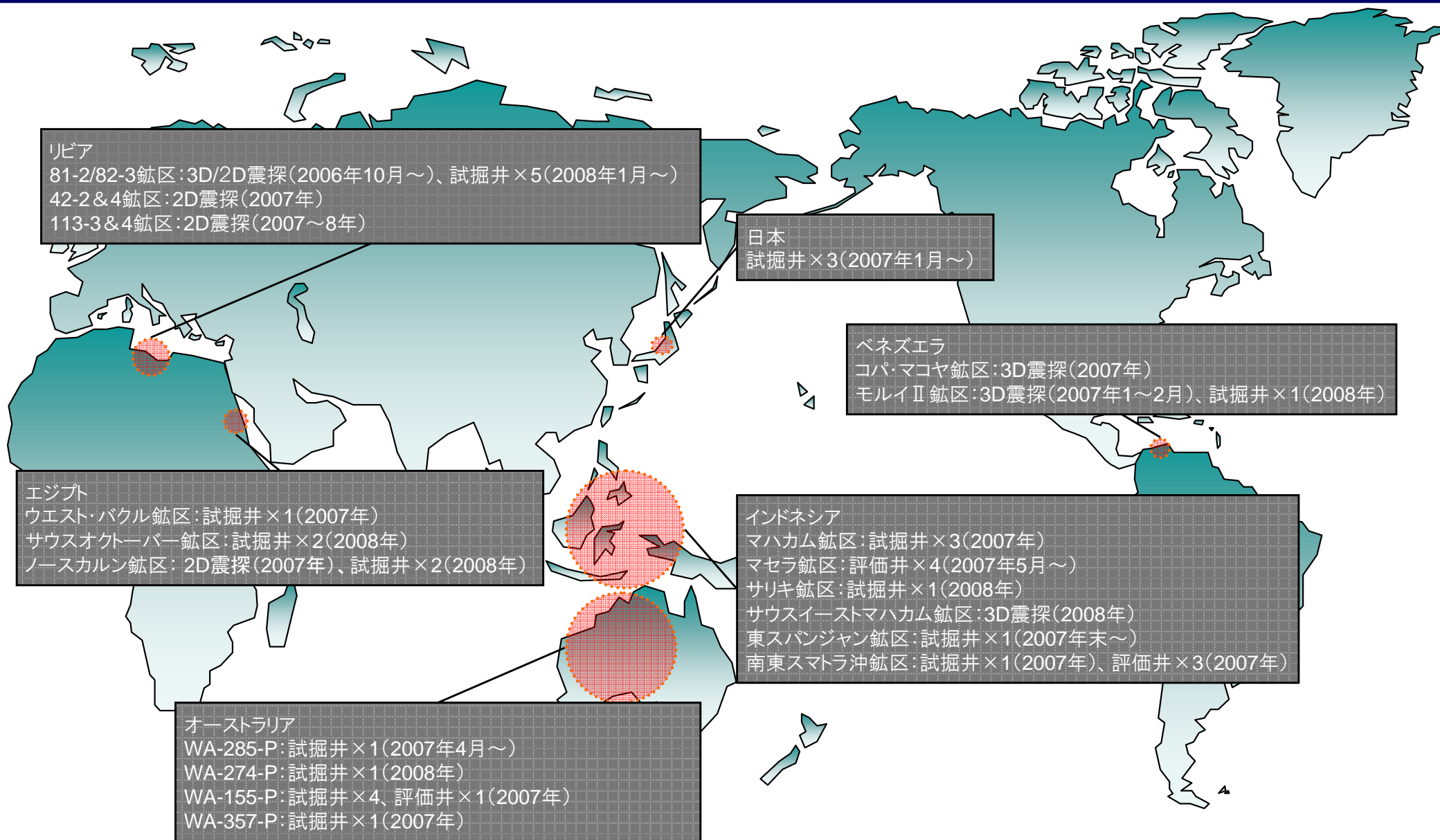
- 確認埋蔵量の定義は、米国の投資家に広く知られている米国証券取引委員会規則S-X Rule 4-10に従っており、地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件及び操業条件の下で、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能である原油・天然ガスの数量(estimated quantities)とされております
- 確認埋蔵量に分類されるためには、市場及び経済性のある採取・処理・出荷手段が既に存在するか、あるいは、近い将来に実現することが確実であることが条件となっており、石油・ガス業界で用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的な数値として広く認識されております
- また、米国証券取引委員会規則の定義による確認埋蔵量は、既存の坑井及び施設を利用して回収することができる確認開発埋蔵量(proved developed)と将来掘削される坑井及び施設を利用して回収することができる確認未開発埋蔵量(proved undeveloped)の二つに区分されております

推定埋蔵量の定義

- 推定埋蔵量の定義は、石油技術者協会(SPE)及び世界石油会議(WPC)の両学会が共同で定めた指針に従っており、地質的・工学的データに基づき、将来おそらく回収することが可能である未確認埋蔵量(Unproved Reserves)とされております
- 確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量に対して、回収することができる確率が少なくとも50%以上であることが必要とされています
- 米国証券取引委員会規則に基づく確認埋蔵量との違いは、埋蔵量評価時点において、将来にわたり合理的な確実性をもって回収することが可能と認識できるかどうかという点であり、新規技術データの追加や経済条件及び操業条件等の熟度と開発される確度が高まることにより、推定埋蔵量は確認埋蔵量に格上げされることとなります

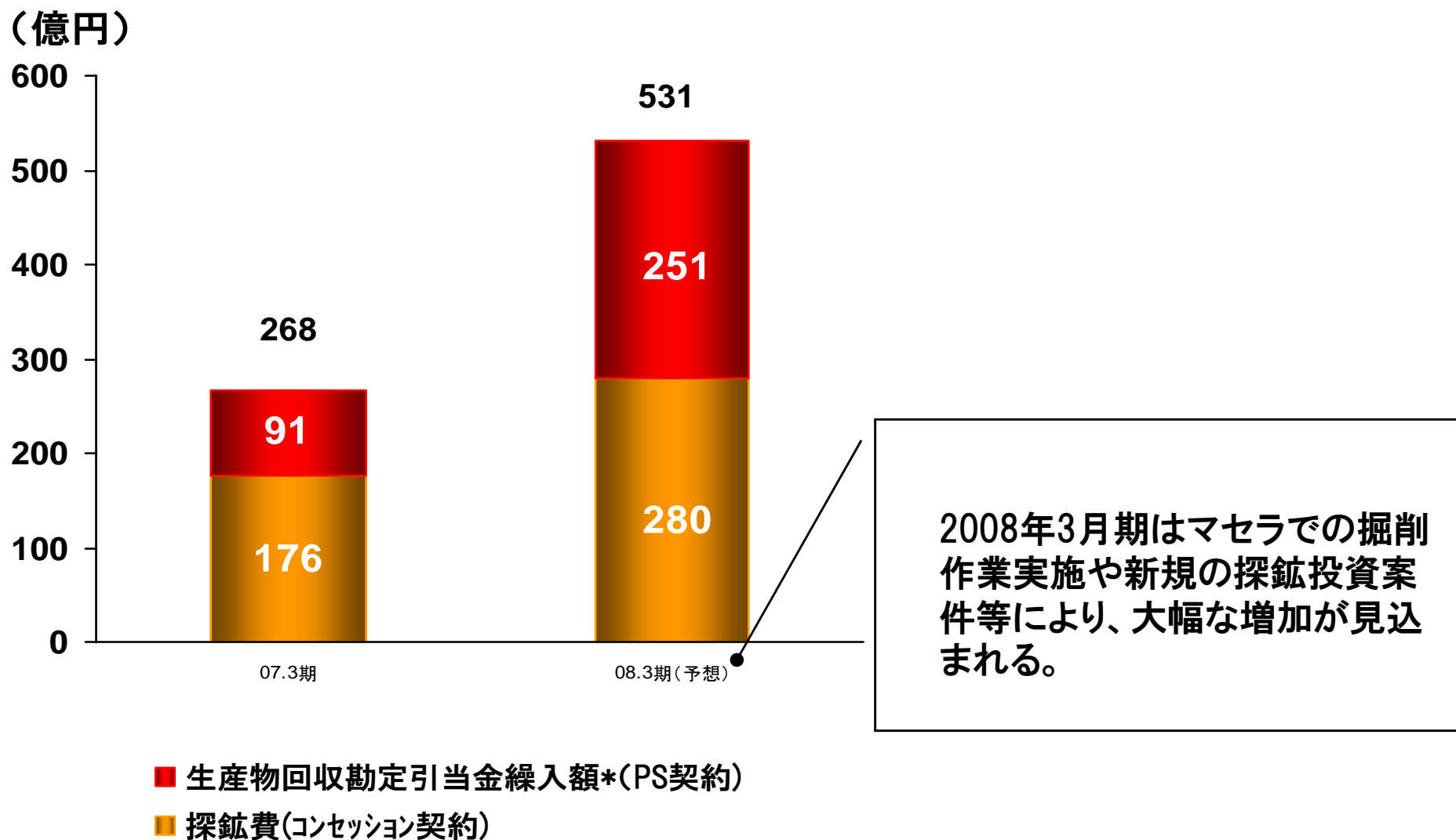
※ 2007年3月末、SPEはWPC/AAPG/SPEEと共にこれまでの埋蔵量定義の変更を決定しましたが、当社グループの2007年3月31日時点の推定埋蔵量は、変更前のSPE/WPCの基準に基づいてDeGolyer&MacNaughton社が評価鑑定を行った数値です。

2007～2008年 グループ探鉱計画



注) 上記は、2007年5月現在における主な探鉱計画であり、今後見直される可能性があります。

探鉱費・生産物回収勘定引当金繰入額予想



* 探鉱事業引当金繰入額を含む

生産物回収勘定の増減推移

(百万円)

	INPEX連結	帝石連結	HD連結
生産物回収勘定(期首)	294,273	802	295,075
増加:			
探鉱投資	8,390	1,401	9,791
開発投資	159,985	128	160,113
操業費	45,031	1,652	46,683
その他	—	16	16
減少:			
コスト回収(CAPEX)	105,754	195	105,949
コスト回収(Non-CAPEX)	85,031	1,288	86,319
その他	—	262	262
生産物回収勘定(期末)	316,894	2,255	319,149
生産物回収勘定引当金	49,556	1,634	51,190